ISSN 0286-5424

京都府埋蔵文化財情報

第89号

大山崎町土辺古墳の家形埴輪 ---------- 石井　清司 -- 1
共同研究　京都における石器石材の獲得とその利用 ---------- 中川　和哉 -- 3
平成15年度発掘調査略報 ---------- 15
1．三角古墳群
2．里遺跡第6次
3．内田山遺跡・内田山古墳群（第4次）
研究ノート 城陽市芝山遺跡の土地利用について ---------- 小池　寛 -- 19
府内遺跡紹介　96．長岡京左京二条三・四坊 ---------- 23
長岡京跡調査だより・86 ---------- 25
第96回埋蔵文化財セミナー ---------- 27
センターの動向 ---------- 29
受贈図書一覧 ---------- 31

2003年9月

財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

大山崎町土辺（つつべ）古墳の家形埴輪

石井　清司

1．はじめに

平成14年６月、大山崎町下植野南遺跡の調査で、一辺約13mを測る方墳（土辺古墳）の調査を行った。この土辺古墳では、埋葬施設は後世に削平されていたため検出できなかったが、上面幅約３m、深さ0.6mを測る周溝を検出し、周溝内から土師器、円筒・朝顔形（鰭付きを含む）埴輪のほか、北側周溝から家形埴輪１個体が良好な状態で出土した。その調査成果については、『京都府埋蔵文化財情報』第85号で紹介したところである。

この土辺古墳の整理作業は、平成14年６月の現地調査終了後から現在継続中であるが、家形埴輪については復原作業が終了したため、ここで紙面をかりて報告する。なお、成形方法・器面調整を含めた家形埴輪の実測作業については現在継続中である。

2．家形埴輪の概要

土辺古墳の家形埴輪は、家本体部の上段と屋蓋部の残存状態は良いが、家本体部の下段は大半が欠落しており、全体の高さは推定の域をでないが１m前後であったと思われる。

遺存状態が良好な屋蓋部は入母屋造りで、上屋根部の切妻部分は下屋根部分の大きさ１に対して0.75と小振りであり、切妻屋根全体を網代で覆い、両端には破風板を表現している。上屋根平側には幅2.5cmの面違い紋様を表現している。妻飾りは上半が欠損しているが、棟束を表現したかのように、下屋根部からのびる粘土板がある。下屋根部は寄棟屋根で、妻側長62cm、平側長81cm、上屋根部と同様に幅2.5cmの面違い紋様を妻・平側それぞれの上・下端に施しており、棟部には上屋根部から如々に広がるような段表現がある。

第１図　家形埴輪全景

本体部分の上段部は桁行２間、梁間２間で、角柱の柱形を表現し、各柱の間には腰壁を設け、腰壁上縁には線刻で窓台を表現している。下段部は前述のように大半が欠落しているが、上段部から続く下段部の壁面の状況から桁行２間、梁間１間で角柱である。上段部と下段

第２図　細部(1)

第３図　細部(2)

部の境には水平方向にのびたのち、斜め方向にのびる粘土帯を設けて屋根の表現あるいは鼠返しがあり、その外面には屋蓋部と同様の面違い紋様を施している。上段部と下段部の境の内側には大阪府美園１号墳出土家形埴輪のような床表現がなく、幅7.5cmの粘土板が四周するのみである。

この家形埴輪の特徴として、本体の上段と下段部の境にある突帯から後述する幕板部分にむかってのびる一辺3.8×1.7cm、長さ28cmの方形粘土板を各隅部と各面中央部に貼りつけて「方杖」を表現している。また、軒端から内側4.5cmに幅5.5cm、厚さ１cmの粘土板で面違い紋様を表面に加飾した「幕板」の表現がある。なお、方杖と幕板を表現した粘土帯の貼りつけ方法は方杖を表現した粘土板を、まず軒下に貼りつけたのち、方杖と方杖の間をつなぐように幕板を表現する粘土を貼りつけている。基底部は大半が欠落しており明瞭ではないが、半円形の透かし孔を表現したものと思われる。

３．ま と め

土辺古墳の整理作業は現在継続中であり、その詳細については、今後の報告書で詳述する予定であるが、ここでは復原作業が完了した家形埴輪について紹介した。この土辺古墳は周溝内から出土した円筒・朝顔形埴輪の特徴から古墳時代前期、川西編年の２期に相当し、家形埴輪に表現された面違い紋様や上段部の切妻表現と寄棟表現の大きさなど、前期の家形埴輪の特徴を備えており、円筒・朝顔形埴輪の特徴と符合する。この家形埴輪には、奈良県宮山１号墳出土の家形埴輪に見られる幕板表現とともに、軒の出が深いために支えたと思われる方杖表現がある。方杖については中国や東南アジアで現存する建物に表現されているが、日本国内では方杖を表現した家形埴輪の出土例がなく、今後検討する必要があるが、古墳時代において中国の影響のもとに方杖をもつ建物が存在したことを窺わせる資料である。建物本体では上段部と下段部の境に表現された突出表現は、高床構造の鼠返しや二階建て構造の小屋根の表現が考えられるが、下段部の大半が欠落しているため、いずれであるかは明らかでない。ただ、全体の構造から今回出土した家形埴輪は祭殿を表現したものと考えられる。

（いしい・せいじ＝調査第２課調査第３係長）

共　同　研　究

京都における石器石材の獲得とその利用

中川　和哉

はじめに

旧石器時代、縄紋時代、弥生時代を通じて石器は、主要な利器として用いられてきた。弥生時代以前は、石斧などの特定器種を除くと打製石器が広く利用されてきたが、弥生時代になると研磨技術が大陸起源の多用な石器に利用された。磨製石器は主に粘板岩や片岩などの薄く剥がれる性質をもった石材から作られている。

京都というと平安京のあった京都盆地を中心とする地域を想像するが、古代以来、気候風土をもとに、山城・丹波・丹後の３つの地域に区分されてきた。山城地域は広い盆地があり、宇治川・木津川・桂川が流れ、大阪との境付近で合流し淀川となる。大阪や奈良に近接した地域でもある。丹波は小さな盆地が点在するが、中国山地から連なる標高の高い地域である。丹後は日本海に面し、雪の多い地域である。この旧国区分は、上記したように気候風土の違いを反映したもので、この地域区分に沿って説明していきたい。

本稿では、京都府内の石器石材の利用状況を整理し、問題点と課題を明らかにするとともに、近年の発掘調査で資料数が増加している弥生時代の石器石材利用について考察を加えた。

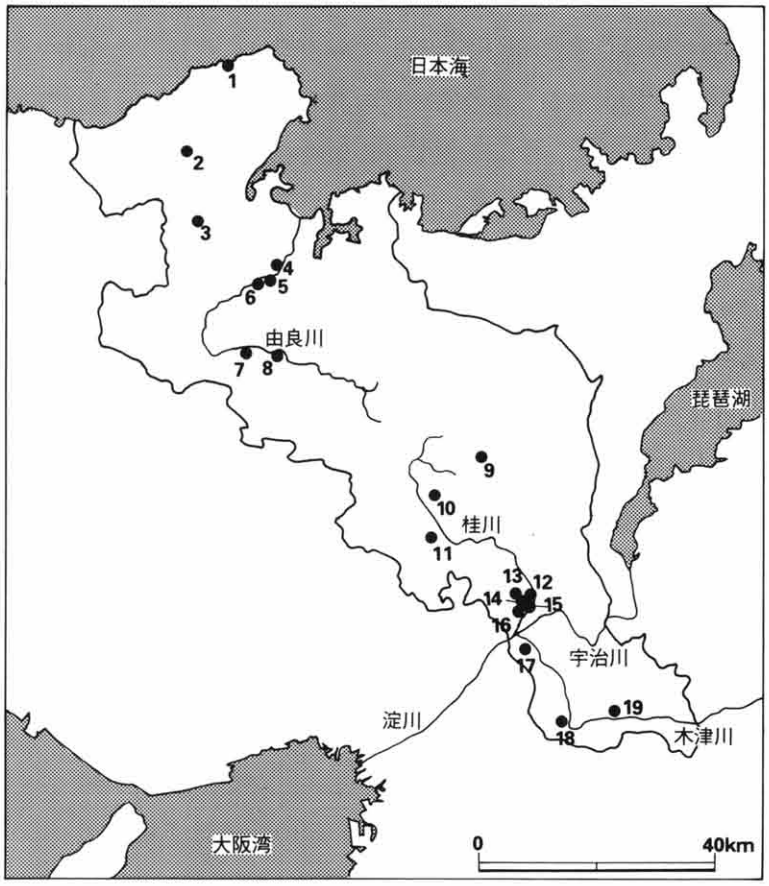
１．旧石器時代

旧石器や縄紋時代の遺跡は、京都では発掘例が少なく確定的なことを述べる段階ではないが、これまで発見されている遺跡群をもとに問題点を指摘しておきたい。

山城地方の後期旧石器時代遺跡は比較的多く発見されている(中川1991)が、その多くが表面採集資料または後世の包含層中からの出土である。発掘調査でまとまって出土した事例には、長岡京右京第570次の硲遺跡(原ほか1999)の事例があるのみである。石器に用いられる石材は、サヌカイトとチャートがほとんどである。サヌカイトは肉眼的には二上山産のものと考えられるものが多い。チャートは丹波地方に広がる丹波帯中で露頭として発見することができる。しかし、その転石は山城地域でも礫層や河床面で広く認められる。近畿地方の一般的な傾向であるが、国府型ナイフ形石器や横剥ぎのナイフ形石器にはサヌカイトが、そのほかの二側辺加工のナイフ形石器にはチャートが用いられていることが多い。京都では素材の搬入形態などがわかる資料はこれまで検出されていない。ただ、淀川水系の遺跡である高槻市郡家今城遺跡の出土遺物の研究(山口1983)から、瀬戸内技法の過程で生じる盤状剥片の形で搬出されていることが指摘されている。しかし、二上北麓の遺跡に見られるような、国府型ナイフ形石器に偏った石器の集中製作の痕跡

は、素材のみならず完成品として移動したことも視野に入れる必要性を見せている(松藤1985)。

丹波地域では、蒲生遺跡(田代1991)では、サヌカイト製の国府型ナイフ形石器が周辺の表面採集で発見されており、チャートの原産地帯である丹波においても瀬戸内技法とサヌカイトとの結びつきの強さがうかがえる。綾部市の以久田野遺跡(堤1976)ではチャート製の切出し状のナイフ形石器が発見されている。八木町池上遺跡(岡崎・田代2002)からも縦長剥片を素材としたチャート製のナイフ形石器が出土している。以上のように丹波地方では、確実な旧石器時代の発掘調査はなく、いまだに様相は不明であるが、同じ丹波山塊の盆地に立地する兵庫県氷上町七日市遺跡(久保ほか1990)では、後期旧石器時代前半の２枚の文化層から数%のサヌカイトを除くと、ほぼすべて在地産のチャートを用いる石器群が検出さている。同じく西紀町の板井遺跡(山口ほか1991)では２枚の文化層が検出され、後期旧石器時代前半の文化層では、サヌカイトとチャートは42対58の個体数、20対80の重量の比率をもっている。後期旧石器時代後半の文化層では、サヌカイトとチャートは83対17の個体数の比率をもっている。これらの石材組成比は、大阪湾岸の後期旧石器時代の遺跡に比べチャートの利用頻度が高いことから、同様にチャート産出地にあたる丹波地域京都側の旧石器時代の石材組成もまた、チャートの比率が高かったと想定できる。



第１図　主要遺跡位置図

1．平遺跡　2．扇谷遺跡　3．蔵ヶ崎遺跡　4．志高遺跡
5．桑飼下遺跡　6．桑飼上遺跡　7．興・観音寺遺跡　8．青野遺跡
9．東山遺跡　10．池上遺跡　11．太田遺跡　12．東土川遺跡
13．今里遺跡　14．神足遺跡　15．雲宮遺跡　16．硲遺跡
17．市田斉当坊遺跡　18．畑ノ前遺跡　19．例弊遺跡

２．縄紋時代

京都府内では、まとまった石器が出土した遺跡が少ないが断片的な資料をまとめておきたい。

加茂町例幣遺跡(森・中川ほか1994)では、竪穴式住居跡と考えられるＳＨ9207を中心に遺物整理コンテナ２箱分の大量の石器・砕片が出土している。多くは二上山産と考えられるサヌカイトの剥片である。石器の製品は石鏃・同未成品が多く、総数は数百点にのぼる。未成品や失敗品が主体を占める。サヌカイト以外の石材には、下呂石製の完成品の

石鏃、信州産と考えられる透明度のある飴色の黒曜石剥片、大理石の剥片などがある。サヌカイト以外の石材は単独出土で、一連の石器製作行程を示す遺物は存在していない。

向日市石田遺跡(高橋1997)のＳＸ1003から埋納された状態で10個の大形のサヌカイト片が出土している。同一個体と考えられるものは見られない。石器の素材として遺跡内にもたらされたものと考えられる。個々の石器は人為的に加工されたもので、旧石器時代の翼状剥片、翼状剥片石核、横剥ぎの石核、盤状石核があり、いずれもが新旧の２つの異なる風化面をもっている。新しい剥離面は調査時についたものではなく風化作用を受けていることから、石器埋納時に近い時期の風化面と考えられる。この新しい風化面は、他の箇所から出土した石鏃などの石器の風化面と類似しており、古い風化面とは著しい差が見られる。これらのことから、旧石器時代の遺物を採取した縄紋人が、埋納行為を行ったものと想定できる。

丹波山中の京北町東山遺跡(中川・森川2001)では、41点の石器が出土しているが、１点のサヌカイト製の剥片を除き、チャートを石器素材としている。チャートは遺跡の立地する丘陵に露頭が見られるが、石器には水磨した円礫が用いられている。円礫は遺跡の基盤層や河床面に多く発見することができる。

亀岡市鹿谷遺跡(野島・河野1993)では、単独出土ではあるが縄紋時代草創期の黒曜石製の大形槍先形尖頭器が出土している。肉眼観察によると、隠岐産の黒曜石と考えられる。黒曜石が京都府南部で用いられることは極稀であるが、京都府北部では散見することができる(長谷川1986)。

舞鶴市志高遺跡(肥後・三好ほか1989)は縄紋時代前期の遺跡である。打製石器に用いられる石材には、無斑晶安山岩(サヌカイト？)、チャート、流紋岩、安山岩、頁岩、黒曜石、水晶があり、石鏃319点における石材の比率は、無斑晶安山岩51.4%、チャート33.2%、流紋岩10.7%、安山岩2.8%、頁岩0.9%、黒曜石0.6%である。

舞鶴市桑飼下遺跡(渡辺ほか1975)は、丹後の中でも最も大きな主用河川である由良川沿いの縄紋時代後期の集落跡である。粘板岩製の打製石斧を除くとすべてが、サヌカイト製とされる。

志高遺跡と桑飼下遺跡は、同じ河川沿いの近接した遺跡であるが、上記したように石材の組成がまったく異なる。この地域では、縄紋時代には時期によって石材入手事情が著しく変化していることがわかる。

丹後町平遺跡(河野ほか1997)は、日本海を望む縄紋時代前期～晩期までの遺跡である。打製石器の石材には、安山岩(サヌカイトを含む)、流紋岩、凝灰岩、チャートが用いられている。石鏃に見られる石材組成は67点中、安山岩が35点(52.2%)、流紋岩28点(41.8%)、凝灰岩３点(4.5%)、チャート１点(1.5%)である。石器の完成品には、安山岩の比率が高いが、未報告の剥片・石核類には、流紋岩が圧倒的に多く、小児頭大の石核なども認められる。

時期などの細かい論議をするほどの資料的なまとまりはないが、地域ごとの利用石材の違いをまとめてみたい。

山城地域の縄紋時代の打製石器には、サヌカイトが主に用いられていた。比較的安易に入手可能なチャートなどの石材の利用は少ない。

丹波地域は、チャートが主要石材として用いられる遺跡もあるが、一定量のサヌカイトも認められる。

丹後地域では、安山岩(サヌカイトを含む)が主要石材ではあるが、地域によって流紋岩や玄武岩、玉髄など在地の石材が利用される。安山岩と分類したものには、サヌカイトとは異なる剥離面が平滑でない石材を利用したものが認められる。このような石材は丹後地域で一般的に遺跡では発見できるが、産出地の特定や分布などは不明である。一方、二上山産や金山産のサヌカイトとしたものと類似した石材が、福井県や石川県で産出することが知られており、日本海側の石材の肉眼鑑定には一定の留意が必要で、蛍光X線分析などの科学的な分析例の増加をもって再検討していく必要がある。また、搬入石材の１つである黒曜石は、量が少ないものの各遺跡で散見できる。

３．弥生時代

弥生時代に入ると、まとまった量の石器が出土している遺跡の発掘調査例が、それ以前の時代に比べて増加する。石材について打製石器と磨製石器に分けて述べていきたい。

Ａ．打製石器

弥生時代前期の、長岡京市雲宮遺跡(中川・田畑ほか1997)では、打製石器には二上山産と金山産と考えられる２系統のサヌカイトが用いられていた。報文中で図化したように、二上山産の扁平な小形の礫が石材として搬入されており、二上山産の大形石材を容易に入手できなかった様子がみて取れる。

丹波地域の弥生時代前期から中期初頭の遺跡である亀岡市太田遺跡(村尾・田代1986)でも打製石器は、サヌカイトが石材に用いられている。石材には漆黒な破断面をもつものと、流状構造の発達したものが見られ、それぞれ二上山産と金山産にあたると想定できる。

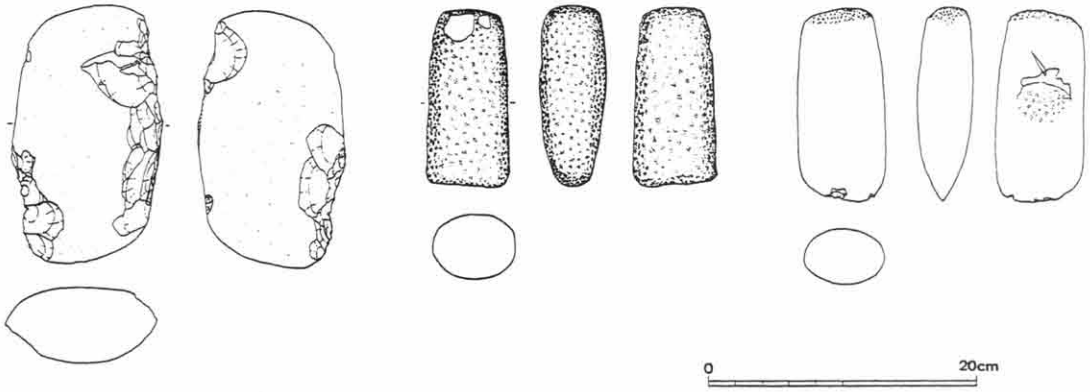
丹後地域の弥生時代前期～中期初頭の遺跡である峰山町扇谷遺跡(田中ほか1988)では、若干の例外を除くとサヌカイトが打製石器に用いられている。

加悦町蔵ヶ崎遺跡(森・中川ほか1993)は、弥生時代前期中～新段階の遺跡である。石器石材には、黒曜石・凝灰岩・玄武岩・流紋岩・瑪瑙・玉髄・サヌカイトなどが用いられている。二上山産と考えられるサヌカイトは、削器が破損品として見られるのみである。他の石材は黒曜石を除き丹後半島で産出する石材である。

山城地域の弥生時代中期の遺跡では、二上山産と考えられるサヌカイトが利用石材の主流となる。

丹波地域の中期の遺跡である亀岡市余部遺跡(野々口1998・1999)や八木町池上遺跡(中川・野々口・筒井2000、岡崎・田代2002、中川2003)、福知山市興・観音寺遺跡(田代1992、崎山1995)では、打製石器のほぼすべてがサヌカイトで作られており、チャートなどの在地石材はほとんど用いられない。

丹後地方では、由良川沿いの遺跡である志高遺跡、桑飼上遺跡(岸岡・細川1993)では、石鍬(打製石斧)などの粘板岩製石器を除くと、安山岩(サヌカイトを含む)が打製石器に用いられている。



第２図　八木町池上遺跡出土石斧と同未成品

弥生時代の打製石器の石材は、山城・丹波地域では、弥生時代前期にはサヌカイトが用いられ二上山産と金山産と考えられる石材が用いられる。中期には二上山産が多用される。

丹後地域では、弥生時代前期には安山岩(サヌカイトを含む)とともに黒曜石や在地産の多用な石材が用いられている。中期には由良川流域では、安山岩が用いられるようになる。丹後半島に位置する弥生時代中期遺跡ではまとまった形で出土した遺跡がないため、詳細は不明である。

Ｂ．磨製石器

磨製石器の主要なものには、石鏃・石剣(鉄剣形・銅剣形)・石庖丁・石斧がある。京都府では磨製石器の主要な石材には、大形の石斧は、閃緑岩・ヒン岩などの緑色の岩石、そのほかの器種には粘板岩が多く用いられる。いずれも在地で産出する石材である。

山城や丹波地域では、大型の石斧には閃緑岩・ヒン岩などの緑色の岩石が多く用いられる。石材の様相は、素地の細かなものから粗粒のものまで見られるが、比重が比較的重いものが多い。石斧に用いられる石材は丹波帯内で見られる石材で、桂川流域では転石として採取することが可能である。閃緑岩の産出地としては鞍馬が知られているが、その山帯の北側を流れる桂川上流部(京北町)では一抱えほどある礫が見られ、下流域とは粒径を異にする。石斧の生産を示す一連の資料が出土した遺跡には、桂川中流域の池上遺跡があげられる。

この遺跡では、第２図に見られるように原礫採取から製品までの行程を示す資料がそろって出土している。原礫は石斧に加工するのに適当な長楕円形の円礫を用い、石のハンマーによって周辺を整形加工し、敲打によって大まかな形に調整を施す、この時点では刃部側は断面が胴部に比べやや小さくなるが、端部は平坦面をもっている。最終的な研磨行程で刃部が形成される。破損品の刃部再製は、破断面からの剥離によって整形され、敲打、研磨の工程を経て行われる。加工痕の残る円礫は東土川遺跡においても検出されている。遺跡内にもたらされたこのような円礫や、加工の際生じた整形剥片は、取り上げられることが少ないため実態は不明であるが、桂川流域の遺跡では、その石材産出生産の様子を見て取ることができる。

京都府内の遺跡における粘板岩の利用の実態を、石庖丁に占める石材組成をもとに検証していきたい。

弥生時代前期を中心とする時期では、山城地域の雲宮遺跡で２点の耳成山産流紋岩の石庖丁を

除くとすべてが粘板岩製(７点)である。丹波の太田遺跡では１点の不明石材製を除く43点(未成品17点は集計に含まない)が粘板岩製のものである。丹後の扇谷遺跡では出土数は少ないが３点すべてが粘板岩製である。

中期の遺跡では山城地域であっても丹波帯と離れた奈良県に近い精華町畑ノ前遺跡(川西・千喜良ほか1987)では、17点中10点が粘板岩で、７点が片岩製である。久御山町市田斉当坊遺跡では、数点の片岩製のものを除き数百点が粘板岩製である。東土川遺跡では９点すべてが粘板岩製である。神足遺跡ではＲ630・654・606次調査(岩崎ほか2002)では、出土した28点すべてが粘板岩製であった。Ｒ307次調査地では１点外湾刃の流紋岩製の石庖丁が出土している。興遺跡では３点の粘板岩製石庖丁が出土している。池上遺跡では49点中１点の砂岩製の石庖丁を除きすべてが粘板岩製の石庖丁である。由良川流域の桑飼上遺跡・志高遺跡では、桑飼上遺跡で１点発見されている以外に、石庖丁が見られない。代わりに粘板岩製の打製石斧(石鍬)が多数出土している。石器出土量が比較的多い両遺跡での石庖丁の検出例の少なさは、集落の生業の差を表しているものかもしれない。

丹波帯に近い山城地域や丹波地域のまとまった量の石庖丁が出土している遺跡では、数％の例外を除き95％以上が粘板岩を用いている。また山城地域であっても、丹波帯から遠距離の遺跡では非粘板岩製の石庖丁の比率が増加する。丹波帯隣接地の圧倒的な粘板岩の利用は、磨製石鏃や石剣ではより顕著でほぼすべてが粘板岩製である。

粘板岩は丹波帯で産出する石材で、転石の形で桂川水系による河川堆積物などにも含まれている。粘板岩製石器の原材料は、市田斉当坊遺跡(円礫)、雲宮遺跡(円礫)、東土川遺跡(角礫)、太田遺跡(亜角礫・角礫)、池上遺跡(円礫・角礫・亜角礫)で見られる。いずれも丹波帯の粘板岩産出地と近接する遺跡である。これらの遺跡からは石庖丁の整形加工段階の未成品も同時に検出されており、素材の入手から整形、研磨、穿孔の過程が遺跡内で完結していることがわかる。

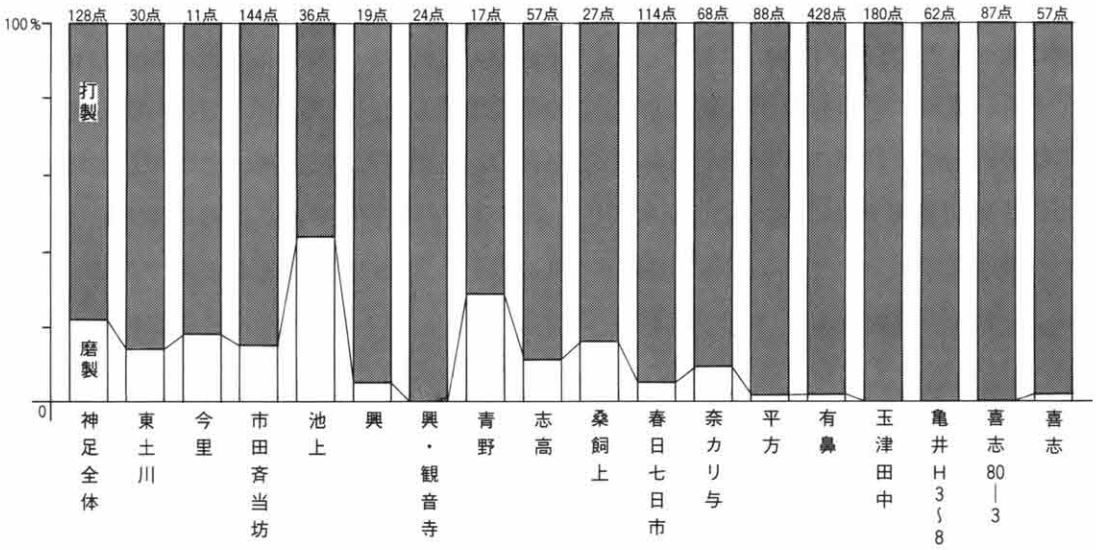
神足遺跡では整形加工段階の大形石剣の未完成品が出土している。磨製石剣の出土量も多く56点(銅剣型石剣を除く)出土している。同じような状況は同じ長岡京市の硲遺跡でも見られる。中期後葉の遺跡である硲遺跡Ｒ624(中島2000)では、竪穴式住居跡から磨製石剣の整形段階の未成品、磨製石剣、銅剣型石剣、磨製石鏃が出土している。少なくとも長岡京市のこの２遺跡では整形加工段階から研磨行程までの段階が行われていたことがうかがえる。これらの遺跡と３kmの距離にある東土川遺跡からは、石剣が製作可能な長さ約38cmの粘板岩角礫が出土している。

丹波地域の池上遺跡では、磨製石剣と素材はもとより整形加工時の未成品と考えられるものが出土している。

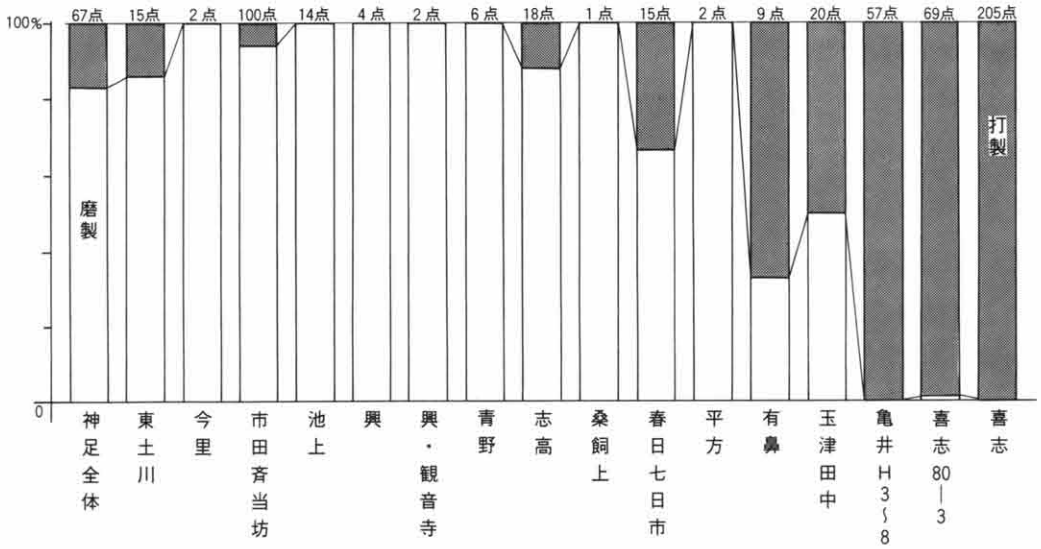
４．粘板岩とサヌカイト

粘板岩とサヌカイトとの関係を、同じ機能を有すると考えられる、打製石鏃と磨製石鏃、打製石剣と磨製石剣との比率から概観しておきたい。

第３図に見られるように、磨製石鏃は山城地域では磨製石鏃の比率は15～20％を占めている。



第３図　弥生時代の打製石鏃・磨製石鏃の組成比



第４図　弥生時代の打製石剣・磨製石剣の組成比

丹波地域の亀岡盆地の池上遺跡では55％が粘板岩製の石鏃である。綾部市の青野遺跡では３回の調査分(鈴木ほか1976、森下ほか1988)の合計で17点の石鏃のうち磨製は５点で29％を占める。福知山市の興・観音寺遺跡では、両遺跡で43点の石鏃が含まれているが粘板岩製の磨製石鏃は１点にしか過ぎない。由良川流域の志高遺跡では磨製のものは16％、桑飼上遺跡では11％となる。

同じ丹波地域にあたる兵庫県の遺跡には、氷上盆地に立地する七日市遺跡(種定・久保ほか1990)がある。石鏃114点中、５％が磨製石鏃である。三田盆地中の奈カリ与遺跡(井守・佐藤1983)は磨製のものが68点中６点、平方遺跡(篠原・久保1993)では88点中２点である。有鼻遺跡では428点以上の内８点がザクロ石雲母片岩を素材とした磨製石鏃で、２％未満である。

対比の為に播磨地域の玉津田中遺跡(深井ほか1996)では、180点中磨製のものは見られない。

大阪平野でもサヌカイト原産地に近い喜志(粟田・田中1997)、喜志遺跡80－３(森本1993)では87点中、磨製石鏃は０点、喜志遺跡では57点中１点が磨製石鏃である。亀井遺跡ではＨ３～８出

土の62点すべてがサヌカイト製であった。

石剣に対しては拙稿(中川2001)において、大陸起源の石剣が、石材適応したものが打製と磨製石剣であり、機能は同じものと結論付けた。この前提で行くと、サヌカイト製の打製石剣と粘板岩製の磨製石剣はそれぞれの原産地に近いほど石器は比率が高くなると考えられる。山城地域では、市田斉当坊遺跡では100点以上の石剣の内、約６％が打製石剣である。神足遺跡では67点中11点が打製石器で16％を占める。東土川遺跡では15点中、２点(13％)が打製石剣である。山城地域では５～15％の打製が見られ、磨製石剣の出土数も多い。第４図に見られるように池上遺跡では14点の石剣の内、すべてが磨製である。出土数の少ない遺跡では、比率の対象となる数字に満たないがすべて磨製である。まとまった量が出土している志高遺跡では18点中、２点(11％)が打製石剣である。

兵庫丹波の七日市遺跡では15点中、５点(33％)が打製である。有鼻遺跡では９点中６点が打製で、丹波地域ではあるが兵庫県側では2/3が打製石剣になる、これは磨製の石器にローカルな石材であるザクロ石雲母片岩が用いられることと関連付けられる可能性も有る。播磨地域の玉津田中遺跡では50％が打製である。

大阪においては、二上山に近い３遺跡ではほとんどすべてが打製石剣である。磨製石剣を特別な儀礼用と考えるのは、大阪南部の状況から見るとそのように見えるだけで、山城・丹波地域では逆に打製のものに特殊性があるように感じられる。このような思考は、少数なものが貴重品であったという固定観念から生じたものである。磨製石剣は衝突痕などの痕跡から実用品として使用されたことは明らかである(中川1999)。神足遺跡(岩崎ほか2002)や市田斉当坊遺跡では、石庖丁から磨製石剣へのリダクションが見られる。通常の実用利器である石庖丁から石剣への変化は、石剣を武威具や威信財といった存在と考える人達の論理大系の中では位置付けられない事象である。また、石剣の破損品が頻繁に他の器種にリダクションされることも指摘しておきたい。

５．サヌカイトの移動形態

磨製のものにはサヌカイト製のものも極わずか含まれるため、若干数値は前後するが、石鏃と石剣では、粘板岩産出地近くではそれぞれ磨製のものの割合が高くなるが、石鏃の場合、粘板岩地帯であっても打製のものが主体を占める。このことは両者の生産や流通の違いを表したものと想定される。サヌカイトをもとにその移動形態と石器製作について若干の見通しを述べたい。

拙稿(中川1998)で示したように、東土川遺跡では打製石器が石器素材剥片の製作、２次加工といった一連の作業行程が存在することを述べた。石器製作にかかわると考えられる、両極技法を用いた剥片製作は、楔形石器や同削片の存在から、ほとんどの遺跡で小型石器を中心に行われていたと考える。これを「遺跡内的な石器生産」と呼び、素材としてのサヌカイトが消費地にあたる各遺跡にもたらされたとした。また、磨製石器の穿孔に関連すると考えられる、石錐はほぼすべてがサヌカイト製である。硬度の関係があるものと想定できるが、石錐製作にはサヌカイトが不可欠の石材であったことがうかがえる。

京都府内でサヌカイト素材の流通時における形態を示す弥生時代のまとまった石材資料は見られない。他の地域に目を転じるといくつかの石材の移動形態が判る。大阪府ではそのような石材の集積遺構を森本氏によって検討されている(森本1991)。弥生時代前期の田井中遺跡（岩瀬1996)の土坑407出土資料では板状のサヌカイト素材が出土している。重さは、重いもので1.2kg、軽いもので0.3kgである。サヌカイトには石理があり、その方向に沿って剥離すると、打瘤の発達が弱い平たい剥離面が形成される特徴をもつ。一方、石理に対して角度がつくほど、剥離面は安定せず波打ったり、剥片末端が蝶番状になったりする。田井中遺跡の出土素材剥片を見ると、主要剥離面が石理に沿っていることわかる。転石から剥片に分割するときに石理に沿って剥離したことを示す。このようは剥片は、両極技法の石核素材として用いる場合、石理と剥離方向が一致するため、薄くて剥離面が平坦な剥片を作り出すためには都合が良い。類例調査が不充分ではあるが予察としてこのような石器素材が各遺跡にもたらされたと考えたい。石器素材は特定の石器と一対一対応するのではなく、小形石器一般に原材料にして用いられる。

一方、打製石剣の場合、石剣自身を素材剥片や原石から製作した証拠は京都府内の遺跡からは発見されていない。製作したのであれば、大形の素材剥片、大形のポイントフレークと呼ばれる特徴的な剥片が発見されるはずである。ただし、機能再生は遺跡内で行われる。

前述した近畿地方発見の板状の素材剥片では、打製石剣を作り出すのは困難である。打製石剣については二上山周辺地域での集中的な製作跡が発見されており、完成品あるいは半完成品までが原石が比較的入手可能な地域で作られていたと考えられる。大阪府内におけるサヌカイト製石器の生産構造の違いは若林氏(2002)によって指摘されている。玉津田中遺跡の打製石庖丁の集積遺構は、打製石剣と同じような生産構造が想起される。同じような法量の大小による石器製作の構造差は、旧石器時代・縄紋時代・中世にもしばしば見られる。

このような構造を理解するならば、山城地域や丹波地域の粘板岩産出地付近の遺跡において、原石や大形の磨製石剣の未成品が出土することが理解される。しかし、特定の遺跡でのみ粘板岩製石器が作られるといった徴候は見られず、集落の規模に対応してどの集落でも磨製石器生産が行われていたことが発掘調査例からわかる。これら石剣などの大形の石器は、素材から完成品が想起されたシステムの中で生産されている。

ま と め

今回の論考においては、不充分な資料的背景ではあるが、近畿地方イコール、サヌカイトといった図式が必ずしも正しくないことが明かにできたと考える。また、時期や地域といった違いによってもその様相を異にする可能性も提示できた。

特に弥生時代の石器の研究は、近畿地方でも大阪や兵庫、奈良といった地域でいち早く行われてきた。そのため、サヌカイトを主要な石材とする地域の論理で、近畿地方が理解されてきた。近年になって京都府内での弥生時代遺跡の発掘調査、報告がなされるにいたり、これまでの弥生時代像にも修正が加えられる必要が生じている。出土量の少なさから磨製石鏃や磨製石剣は実用

品でなく祭器であり、特別な意味をもっているのではなく、製作地からの距離的傾斜比で理解できるもので、両者にはまったく尊卑の区別がないものであることが、地域ごとの出土比を見ることによってわかる。

山城地域や亀岡盆地では、中期の各遺跡での磨製石器生産が認められ、特定遺跡における専有や一元的な石器生産は確定できない。研究の初期段階に調査された遺跡に特別な地位を与えて一元供給論は成立していたと考えられる。

石器を小形品と大形品に分けその生産体制の二重性を述べたが、三田盆地などローカル石材や、金山産素材の流入などいくつかの複雑化させる要素が見られる。このような要素を構造的に分解し、土器研究などの研究成果と関連付けていくことが今後の課題とされる。

また、報告書などでは石鏃や石庖丁といった完成品に偏重した資料提示が多く、本来の人間活動を具体的に示す製作過程の一連の遺物が未報告である場合が多い。このような現状が石器研究を阻害していることも否めない。原石が出土しているかどうかさえ実見しに行かなければ判らないのが現状である。

今回の論考は、当調査研究センターの平成12・13年度の共同研究「石器石材の産状と流通」の一部を発表したものである。共同研究者の田代弘と討論を経て、中川和哉が執筆した。資料収集時にお世話になった諸機関の皆様には文末ながらお礼申し上げます。

（なかがわ・かずや＝当センター調査第２課調査第２係主任調査員）

参考文献

粟田薫・田中正利　1997『富田林市内遺跡群発掘調査報告書』　富田林市教育委員会。

井守徳男・佐藤良二ほか1983　『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』　兵庫県教育委員会。

岩崎誠ほか　2002『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第26集　(財)長岡京市埋蔵文化財センター

岡崎研一・田代弘　2002「南丹区域農用地総合整備事業関係遺発掘調査概要　(1)池上遺跡第８次」『京都府遺跡調査概報』第103冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター　５～34頁。

川西宏幸・千喜良淳　1987『(仮称)精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書－煤谷川窯址・畑ノ前遺跡－』　精華町教育委員会・(財)古代學協會。

河野一隆　1997「平遺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第79冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、１～68頁。

岸岡貴英・細川康晴ほか　1993『京都府遺跡調査報告－桑飼上遺跡－』第19冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

久保弘幸・藤田淳　1990『七日市遺跡(Ⅰ)旧石器時代遺跡の調査』　兵庫県教育委員会。

崎山正人　1995『興・観音寺遺跡(福知山市文化財調査報告書第29集)』　福知山市教育委員会。

篠宮正・久保弘幸ほか　1993「平方遺跡群」『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅲ』　兵庫県教育委員会、57～204頁。

鈴木忠司ほか　1976『青野遺跡Ａ地点発掘調査報告書』　青野遺跡調査報告書刊行会。

高橋美久二　1997「長岡宮跡昭和51年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報(1997)』　京都府教育委員会、１～31頁。

田代弘　1991「蒲生遺跡第４次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第42冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、23～28頁。

田代弘　1992「興遺跡」『京都府遺跡調査報告－近畿自動車道鶴賀線関係遺跡(８次区間)－』第17冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

田中光浩・安田章ほか　1988『扇谷遺跡発掘調査報告書(京都府峰山町埋蔵文化財報告書第12集)』　峰山町教育委員会。

谷口悌・田代弘ほか　2000『池上遺跡発掘調査報告－第3次・第4次調査－(八木町文化財調査報告書第６集)』　八木町教育委員会。

堤圭三郎ほか　1976『綾部市史』上巻　綾部市役所。

種定淳介・久保弘幸ほか　1990『七日市遺跡(Ⅰ)－第２分冊－』　兵庫県教育委員会。

中川和哉　1991「淀川流域の旧石器文化の一様相」『京都府埋蔵文化財論集第２集－創立十周年記念－』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、259～268頁。

中川和哉　1998「弥生時代石器研究の実践」『京都府埋蔵文化財情報』第67冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、１～６頁。

中川和哉　1999「弥生時代の石製武器出土埋葬主体部－京都市東土川遺跡例から－」『考古学に学ぶ(同志社大学考古学シリーズⅦ)』　同志社大学考古学シリーズ刊行会、149～158頁。

中川和哉　2001「弥生時代の石剣の分類と操作概念」『京都府埋蔵文化財論集第４集－創立十周年記念誌－』　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、133～142頁。

中川和哉　2003「池上遺跡第12次調査概要」『京都府遺跡調査概報』第108冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、31～134頁。

中川和哉・田畑直彦　1997『京都府遺跡調査報告－雲宮遺跡－』第22冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

中川和哉・野々口陽子・筒井崇史　2000「池上遺跡第５次調査概報」『京都府遺跡調査概報』第91冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、１～68頁。

中川和哉・森川実　2001「東山遺跡第2次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第99冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、21～46頁。

中島皆夫　2000「右京第624次(７ANRUI-3地区)調査略報」『長岡京市センター年報』平成10年度　(財)長岡京市埋蔵文化財センター、158～183頁。

野島永・中川和哉・岩松保ほか　2000『京都府遺跡調査報告－長岡京跡左京二条三・四坊・東土川遺跡－』第28冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

長谷川達　1986「京都府北部出土の黒曜石製石器について」『長岡京古文化論叢』　(株)同朋舎出版、371～376頁。

原秀樹ほか　1999「右京第570次調査概報」『長岡京市センター年報』平成９年度　(財)長岡京市埋蔵文化財センター、38～57頁。

肥後弘幸・三好博喜ほか　1989『京都府遺跡調査報告－志高遺跡－』第12冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

深井明比古ほか　1996『玉津田中遺跡－第５分冊－』　兵庫県教育委員会。

村尾政人・田代弘　1986『京都府遺跡調査報告－太田遺跡－』第６冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター。

松藤和人　1985「旧石器時代の石材移動をめぐって」『考古学と移住・移動(同志社大学考古学シリーズ

Ⅱ)』　同志社大学考古学シリーズ刊行会、145～160頁。

森正・中川和哉ほか　1997「恭仁宮跡平成８年度発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概報』　京都府教育委員会、１～94頁。

森正・伊野近富・中川和哉　1993「国道176号関係遺跡(1)蔵ヶ崎遺跡」『京都府遺跡調査概報』第54冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センタ、２～54頁。

森下衛ほか　1988「青野遺跡第11・13次発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第30冊　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター、１～24頁。

森本晋　1983「喜志遺跡80－３区の石器」『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査発掘調査概要』　大阪府教育委員会、31～46頁。

森本晋　1991「ごみの捨て方－石器製作と廃棄　弥生時代の河内の事例」『考古学研究』第38巻第３号　考古学研究会、67～75頁。

山口卓也　1985「旧石器時代における『移動』について」『ヒストリア』第101号。

山口卓也ほか　1991『板井寺ケ谷遺跡－旧石器時代の調査－』　兵庫県教育委員会。

若林邦彦　2002「弥生時代の物質交換に関する一視点」『大阪文化財論集Ⅱ』　(財)大阪府文化財センター。

補注　市田斉当坊遺跡の石器統計は、現在整理作業中であるため変更の可能性がある。成果については野島永氏の協力によって掲載した。文章の責任は筆者にある。

平成15年度発掘調査略報

1．三角（みすみ）古墳群

所 在 地　舞鶴市下安久

調査期間　平成15年４月24日～６月10日

調査面積　約300㎡

はじめに　この調査は、重要港湾舞鶴港改修事業に伴って、京都府土木建築部の依頼を受けて実施したものである。三角古墳群は、京都府と舞鶴市の両教育委員会が実施した分布調査によって新たに発見された、４基からなる古墳群である。このうち、事業にかかる古墳状隆起３か所と尾根筋の試掘調査を行い、遺構の有無を確認した。

三角２号墳　墳頂部から主体部１基と経塚１基（１号経塚）を検出した。主体部は、大半が経塚と重複する。１号経塚の南西部から、主体部の南西端を確認した。主体部は、地山を掘り込む形で築かれていた。

経塚は、古墳盛土を掘り込む形で認められた。形状は、２m四方の主土坑と東側に突出した埋納土坑からなる。埋納土坑には本来天井部が存在するが、削平を受けており不明である。東側に突出した土坑中央に土師質の筒型容器が埋納されていた。また経塚内には、石が多数見られた。

三角３号墳　墳頂部から主体部１基と経塚２基（２・３号経塚）を検出した。主体部中央を試掘したところ、墓坑南寄りに棺痕跡が認められた。

経塚は、２号経塚が0.6m四方、３号経塚が約1.5m四方の土坑からなる。両経塚内には、石が多数見られる。３号経塚からは、水晶製の数珠玉１点が出土した。京都市の弁天島経塚から出土しているものと類似し、母珠であると考える。

三角４号墳　丘陵中腹に位置する。現在の下安久を望むことのできる所である。調査の結果、横穴式石室を確認した。石室は、全長約７m、幅約１mを測る。山手から古墳に伴う区画溝も認められたことから、径約12mの円墳であると思われる。

まとめ　今回の調査の結果、木棺直葬墳２基、横穴式石室墳１基、経塚３基を検出した。これらの遺構については、来年度に本調査を行う予定で、その成果が期待される。

（岡崎研一）

調査地位置図
（国土地理院1/50,000舞鶴）

2．里（さと）遺跡第６次

所 在 地　亀岡市旭町里垣内

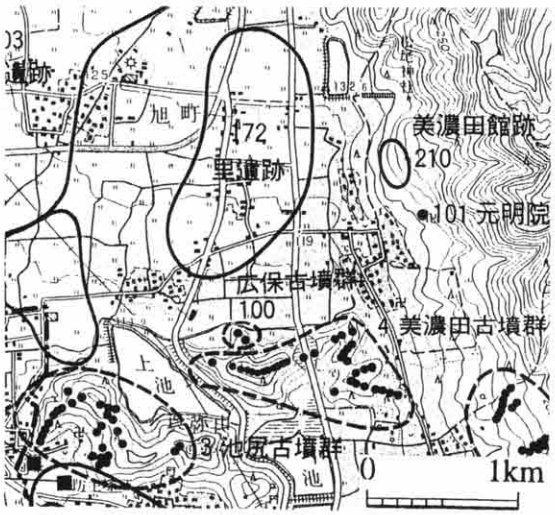
調査期間　平成15年５月１日～８月８日

調査面積　約1,200㎡

はじめに　里遺跡の発掘調査は、府営ほ場整備事業に伴い、京都府南丹土地改良事務所の依頼を受けて実施した事前調査である。里遺跡の既往の発掘調査では、弥生時代後期の竪穴式住居跡群や奈良時代の掘立柱建物跡群などを検出している。特に、平成14年度の発掘調査では、古墳時代中期から後期の竪穴式住居跡を約40基検出しており、口丹波地域を代表する大規模な集落跡であることが確認できた。

調査概要　第５－１・２トレンチでは、古墳時代中期から後期にかけての竪穴式住居跡を約15基と古墳時代後期の掘立柱建物跡、時期不詳の流路などを確認した。検出した竪穴式住居跡は、一辺が４～７ｍの正方形プランを呈しており、炊飯用の竈が、竪穴式住居跡の北辺中央部に付く一群と東辺中央部に付く一群、そして、竈が附設されない一群にわけることができる。

竪穴式住居跡136は、一辺が８ｍを測り、里遺跡で確認した竪穴式住居跡では最大規模である。住居跡の深さは約0.4ｍを測り、土層堆積状況から人為的に埋め戻されたと考えられる。床面から多量の須恵器や土師器が出土しており、堆積土上層から滑石製紡錘車が出土している。竪穴式住居跡136の床面では、南北4.8ｍ、東西６ｍを測る長方形の竪穴式住居跡158と東辺を共有する状態で検出しており、住居跡158から住居跡136への建て替えを想定できる。一方、トレンチ西端で確認した竪穴式住居跡137は、床面に炭化した建築部材が散乱しており、火災による焼失を想定できる。里集落内での焼失家屋は当該住居跡が唯一である。なお、トレンチ中央部では、南北４間（６ｍ）×東西３間（3.8ｍ）の規模を有する６世紀後半の掘立柱建物跡を復原するに至っており、今後、出土遺物の整理の進捗により、掘立柱建物跡の復原を行う必要がある。



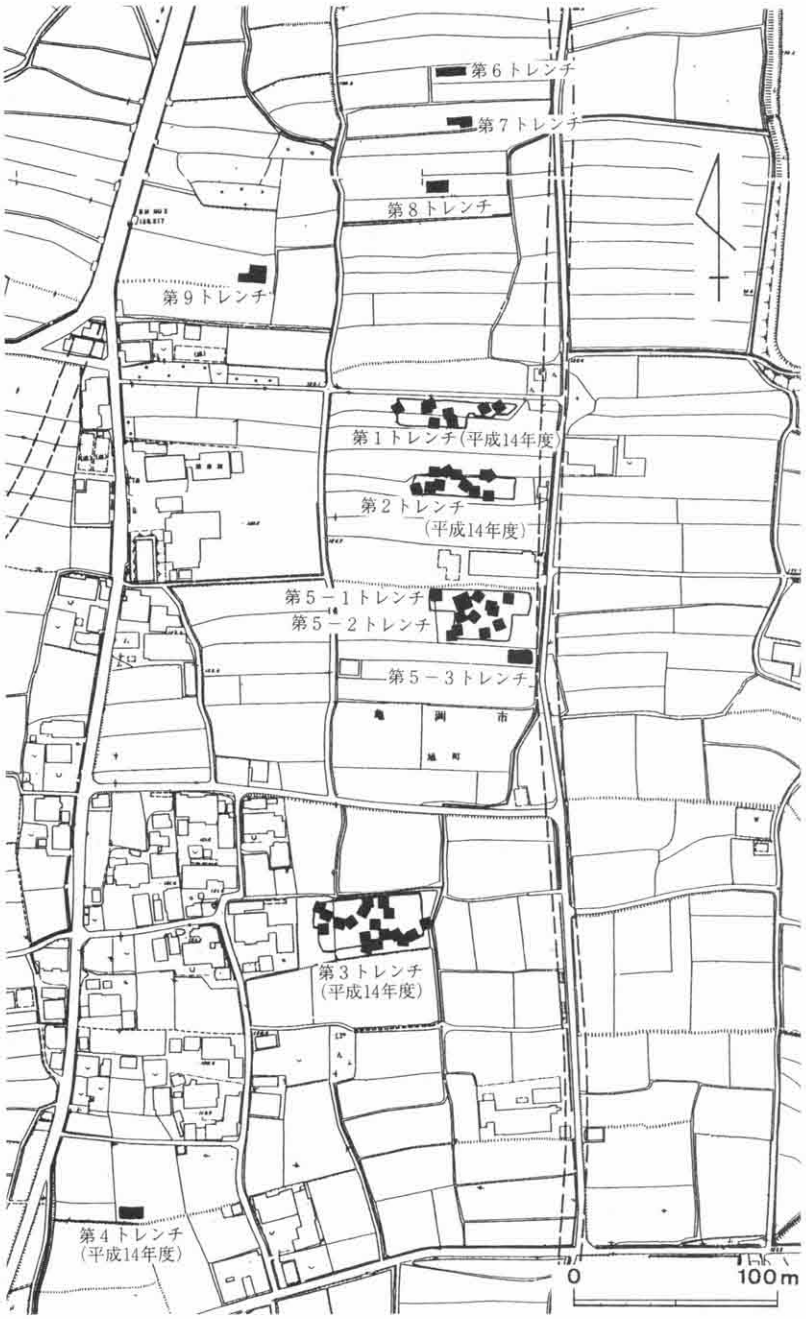
第１図　調査地位置図（亀岡市史より転載）

第７トレンチでは、古墳時代後期の竪穴式住居跡を３基確認した。しかし、周辺のトレンチでは、竪穴式住居跡を検出していないことから、一時的に居住空間が拡張されたと考えられる。

第８トレンチでは、南北３間（4.2ｍ）×東西４間（6.4ｍ）の掘立柱建物跡を１棟検出した。柱穴から６世紀前半の須恵器が出土している

まとめ　里遺跡の発掘調査では、昨年度の調査成果とあわせて古墳時代中期から後期の竪穴

式住居跡を約60基確認した。集落の存続時期は、5世紀後半～6世紀後半の約100年間と推定できる。里遺跡で今まで確認できた竪穴式住居跡は、一辺が4～7m、床面積は16～49m²の正方形の住居跡が大半であったが、5世紀後半の竪穴式住居跡136は、一辺が約8m、床面積は64m²と最大規模を有している。また、明らかに長方形の平面プランを意図した竪穴式住居跡158の建て替えであることから、住居跡158・136は、里集落内に複数存在したと考えられる有力家族の住居施設として認識できる。



第2図　トレンチ配置図および竪穴式住居跡分布図

一方、里遺跡では、多数の土師器や須恵器などとともに、朝鮮半島の土器製作技法の影響を受けた韓式系土師器の甑や大阪府陶邑古窯址群産の須恵器、そして、大阪湾南部から搬入された製塩土器などが出土している。このような遺物群の絶対量はわずかではあるが、当時の交易の一端を表しており、里遺跡のみならず、八木町池上遺跡なども含めた口丹波地域における地域間交流を考えるうえでの基礎資料となる。

里遺跡での府営ほ場整備事業に係わる発掘調査は、本調査をもって終了するが、第1トレンチから第3トレンチ間には、竪穴式住居跡が少なくとも1,000基以上存在したことが想定できる。今後の整理作業によって、各竪穴式住居跡の時期と集落の規模および存続時期を明確にしていく必要がある。

（小池　寛）

3．内田山（うちだやま）遺跡・内田山古墳群（第４次）

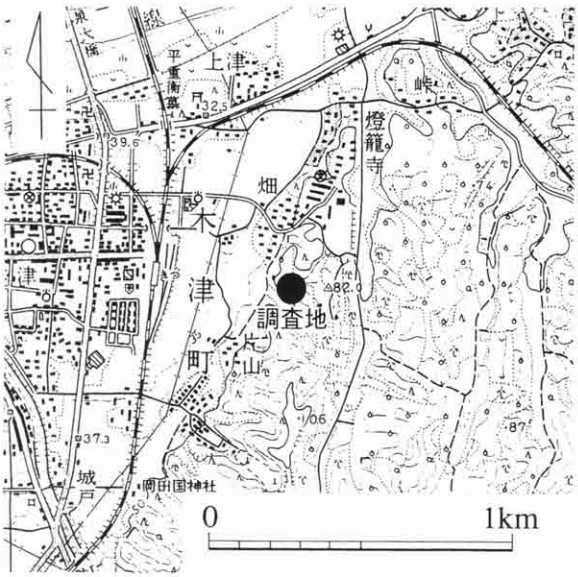
所 在 地　相楽郡木津町大字木津小字内田山

調査期間　平成15年5月26日～６月27日

調査面積　約200㎡

はじめに　この調査は、関西文化学術研究都市の整備事業に伴い、都市基盤整備公団の依頼を受けて実施したものである。調査地は、昨年度の第３次調査を実施した丘陵斜面の南東部に位置する。

調査概要　今回も、昨年度までの調査区名に引き続き、新たに第８トレンチを設定して調査を実施した。第８トレンチでは、第３次調査で出土した弥生時代後期の遺物や関連する遺構の検出が期待された。しかし、調査地の大部分が丘陵斜面にあたるため、近・現代の耕作に伴う思われる溝やテラス状の段などを検出したにとどまる。遺物としては、これらの遺構や丘陵斜面上の堆積土から、近世以降の遺物とともに、弥生土器の破片や埴輪片が出土した。第３次調査では多数の弥生土器が出土したが、今回はごく少量しか出土しなかった。埴輪は円筒埴輪の破片のほか、蓋形埴輪と思われるものもあり、第１次調査で確認している内田山Ｂ１号墳から開墾などにより斜面部に転落したものと考えられる。今回の調査では、調査区の東端で、テラス状の遺構を検出し、多数の埴輪片がまとまって出土した。当初は古墳に関連する遺構かとも思われたが、これらの埴輪片に混じって、近世以降のすり鉢の破片が出土していたことから、これらの埴輪群も、混入したものと判断されるに至った。



調査地位置図（国土地理院1/25,000奈良）

まとめ　今回の調査では、第３次調査の成果に基づいて、弥生時代の遺構等を検出できるものと期待されたが、調査の結果、弥生時代・古墳時代とも顕著な遺構は検出されなかった。第３次調査でも顕著な遺構は少なかったことや、内田山Ｂ１号墳の築造によって削平されてしまった可能性があることなどから、内田山Ｂ１号墳の北側に広がるやや平坦な地形のあたりに竪穴式住居跡などが広がっていた可能性がある。

（筒井崇史）

研究ノート

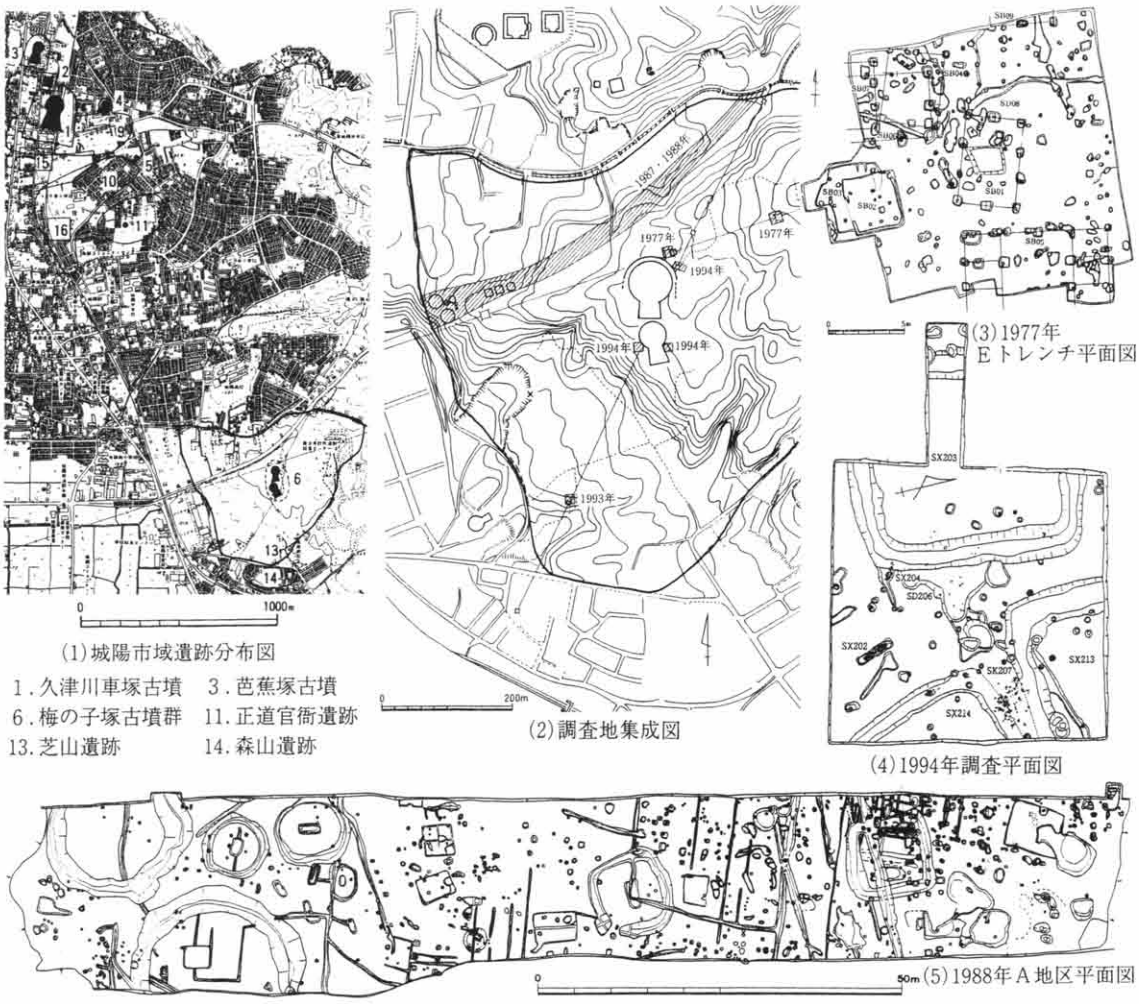
城陽市芝山（しばやま）遺跡の土地利用について

小池　寛

1．既往の発掘調査概観

芝山遺跡は、城陽市寺田南中芝一帯の台地上に位置し、遺跡の範囲は、東西950m、南北840mである（第１図(1)）。また、芝山遺跡の北方には、久津川古墳群や正道官衙遺跡、白鳳期の寺院群などが所在しており、芝山遺跡の成立と密接に関係している。

芝山遺跡における発掘調査（第１図(2)）は、1977年に城陽市教育委員会によって実施され、飛鳥時代の竪穴式住居跡や奈良時代の掘立柱建物跡などが確認された。特に、Ｅトレンチでは、庇付き掘立柱建物跡が確認され、官衙的施設の存在が想定された（第１図(3)）。一方、1987～88年に当調査研究センターが実施した調査では、丘陵先端部にあたるＡ地区においてまとまった遺



(1)城陽市域遺跡分布図
1．久津川車塚古墳　3．芭蕉塚古墳
6．梅の子塚古墳群　11．正道官衙遺跡
13．芝山遺跡　14．森山遺跡

(2)調査地集成図

(3)1977年
Ｅトレンチ平面図

(4)1994年調査平面図

(5)1988年Ａ地区平面図

第１図　芝山遺跡関連図集成

構・遺物群が確認された(第１図(5))。また、1994年の城陽市教育委員会の調査では、陶邑編年ＴＫ73～ＴＫ208型式併行期に比定し得る須恵器が方墳から出土しており、遺跡地南部における土地利用の実態が把握された(第１図(4))。さらに、1998年の当調査研究センターの調査では、平安時代の木棺墓から巡方が出土し、遺跡地内の一部が墓域として利用されたことが確認された。

以上の各調査は、芝山遺跡を評価するうえで重要な調査成果を提示していることはいうまでもないが、芝山遺跡の変遷を整理するうえで、各時代にわたって良好な遺構・遺物を検出した1987～88年の当調査研究センター調査を中心に土地利用の変遷をまとめ、遺跡紹介としたい。

２．芝山遺跡の変遷(第２図)

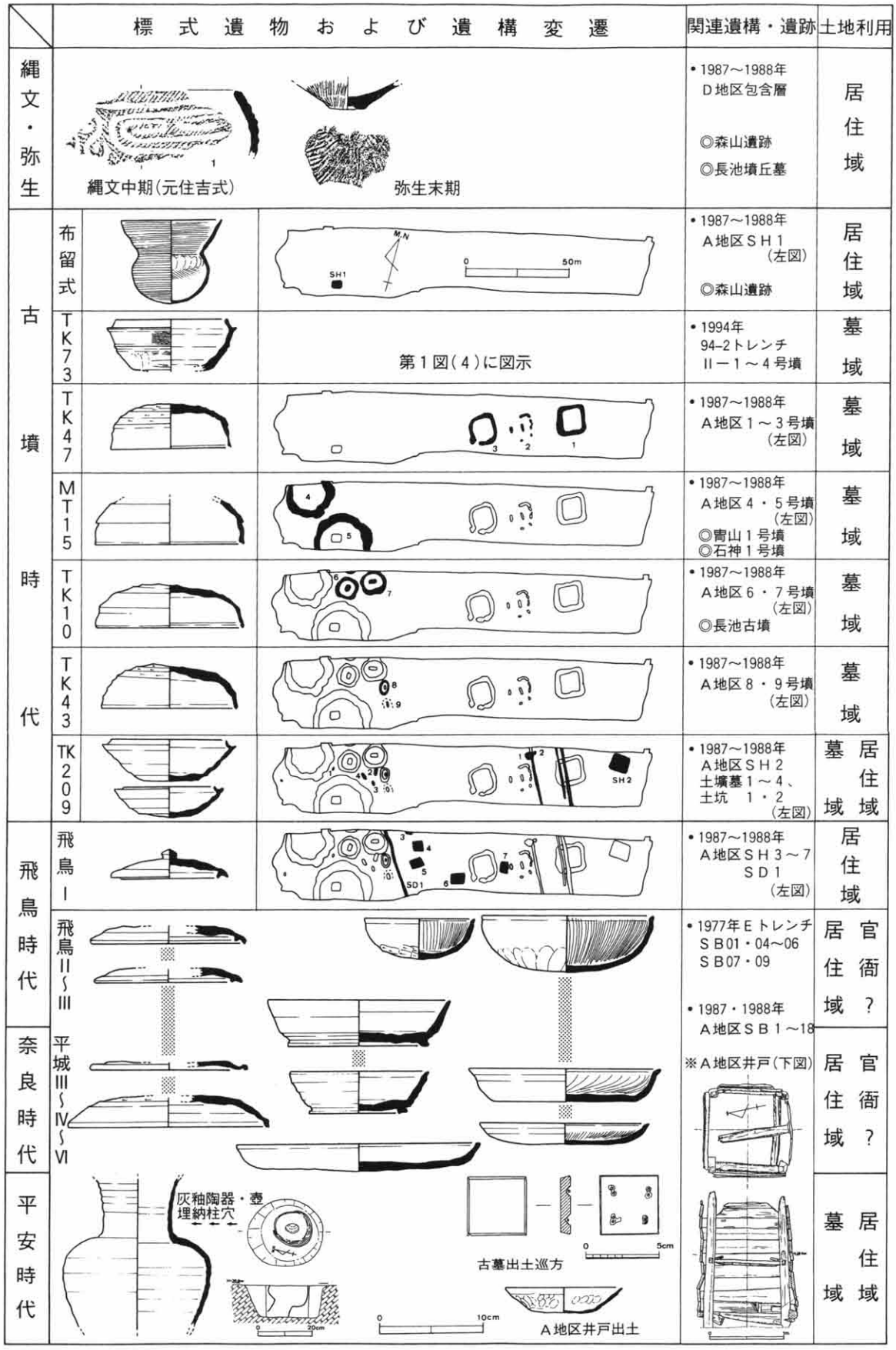
芝山遺跡では、縄文時代から弥生時代の遺構は検出していないが、Ｄ地区包含層から縄文時代中期末(元住吉式)に比定できる磨消縄文土器片と底部輪台技法によって成形された弥生時代末期の甕形土器が出土している。これらの土器群は、芝山遺跡の南に隣接する森山遺跡との関連が想定できる。特に、弥生時代末期の甕形土器は、芝山遺跡の南に所在する長池墳丘墓(庄内式中段階)の成立に時期的にも関連しており、明確な遺構の検出はないが、周辺域において今後、居住を示す遺構の確認が予想される。

一方、古墳時代前期(布留式古段階)には、Ａ地区の先端部で竪穴式住居跡を１基確認している。先に述べた森山遺跡の古墳時代前期集落との関連が考えられる。

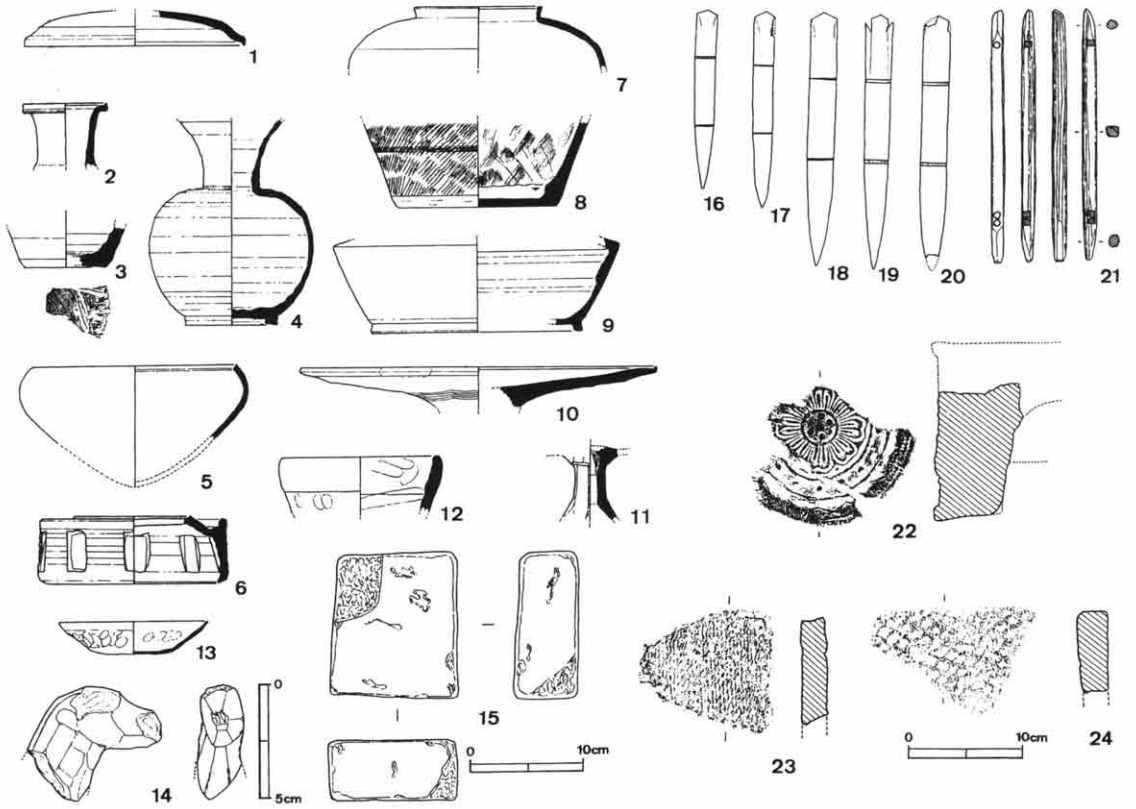
古墳時代中期では、陶邑編年ＴＫ73～ＴＫ47型式併行期に比定できる方形墓が、1994年の城陽市教育委員会の調査を含め確認されている。これらの古墳は、方形周溝墓の系譜をひく、いわゆる低墳丘方形墓であることから、梅の子塚古墳群の被葬者に代表される地域首長下に帰属する在地有力者の存在を示している。

このような円墳は、古墳時代後期の陶邑編年ＭＴ15型式併行期には、丘陵先端部に直径17ｍ前後の円墳が築造される。石材の散乱が見られないことから木棺直葬墳であったと考えられるが、埋葬施設が完全に削平されている点と周溝の掘削深度が深い点などから、高塚の円墳であったと考えられる。これら円墳によって構成される群集墳の成立は、先に述べた在地有力者を被葬者とする見解も提示されている。陶邑編年ＴＫ10型式併行期以後は、墳丘規模も小型化し、陶邑編年ＴＫ209型式併行期の土壙墓群を最終として造墓活動を停止することとなる。なお、陶邑編年ＴＫ209型式併行期には竪穴式住居跡を１基検出しており、丘陵の張り出し方向と直行する複数の溝を検出している。これらの溝は、土壙墓群と竪穴式住居跡を区画するかのように並行して穿たれているが、あるいは、道路の側溝としての機能も視野に入れて検討する必要がある。

飛鳥時代に入ると竪穴式住居跡群によって小規模な集落が形成される。特に、竪穴式住居跡群と群集墳を区画する溝が確認されていることから、小規模集落の造営にあたって、群集墳を避けて居住域を設定したことが想定できる。飛鳥Ⅱ期以降は、明確な掘立柱建物跡を復原し得ていないが、柱穴から土師器や須恵器の出土が確認できていることから、掘立柱建物跡が、丘陵先端部の群集墳を避けて造営されたと考えられる。しかし、高塚である４・５号墳の周溝下層から平城


標式遺物および遺構変遷
関連遺構・遺跡
土地利用
縄文・弥生
縄文中期(元住吉式)
弥生末期
1987～1988年
D地区包含層
◎森山遺跡
◎長池墳丘墓
居住域
古墳時代
布留式
SH1
M.N
0
50m
1987～1988年
A地区SH1
(左図)
◎森山遺跡
居住域
TK73
第1図(4)に図示
1994年
94-2トレンチ
II－1～4号墳
墓域
TK47
1987～1988年
A地区1～3号墳
(左図)
墓域
MT15
1987～1988年
A地区4・5号墳
(左図)
◎青山1号墳
◎石神1号墳
墓域
TK10
1987～1988年
A地区6・7号墳
(左図)
◎長池古墳
墓域
TK43
1987～1988年
A地区8・9号墳
(左図)
墓域
TK209
SH2
1987～1988年
A地区SH2
土壙墓1～4、
土坑 1・2
(左図)
墓域 居住域
飛鳥時代
飛鳥I
SD1
1987～1988年
A地区SH3～7
SD1
(左図)
居住域
飛鳥II～III
1977年Eトレンチ
SB01・04～06
SB07・09
1987・1988年
A地区SB1～18
居住域 官衙?
奈良時代
平城III～IV～VI
※A地区井戸(下図)
居住域 官衙?
平安時代
灰釉陶器・壺
埋納柱穴
古墳出土巡方
A地区井戸出土
0
5cm
10cm
20cm
墓域 居住域

第2図　芝山遺跡変遷図



第３図　芝山遺跡出土律令期の遺物
１～５．７～24：1987・1988年Ａ地区井戸　　６：1987・1988年Ｄ地区包含層

Ⅲ～Ⅳ期の土器が出土していることから、当該時期に群集墳が完全に削平され、掘立柱建物跡群が造営されたと考えられる。このような大規模な整地作業は、小規模集落の造営に伴うとは考え難く、政治的な様相を有する施設の造営に伴う事業であった可能性が高い。特にＡ地区で確認した井戸は、一辺５ｍの掘形を有し、深さは1.8ｍを測る。一辺約１ｍの井戸枠には建築部材が転用されており、四隅に角柱を配し、10枚以上の横板で組み上げている。また、井戸からは、須恵器や土師器とともに、土馬や塼、斎串、平城宮式6291Ａ型式の軒丸瓦などが出土しており、都城で検出される井戸の様相に酷似している(第３図)。また、出土する土器は、飛鳥Ⅱ～Ⅲ期の一群と平城Ⅲ～Ⅳ期の一群に分類することができるが、掘立柱建物跡との関連については、現時点では判然としない。いずれにしても、都城的色彩をもつ井戸の検出や一辺１ｍを測る柱掘形をもつ柱穴など、随所に官衙的な様相が見受けられ、今後、周辺域での関連遺構の検出が予想される。

最後に、平安時代に比定できる灰釉陶器の壺を埋納した柱穴の検出から、規模などは不明であるが、掘立柱建物跡による集落の存在が想定されるとともに、巡方が出土した木棺墓の検出は、当該地の一部が官人層の墓域として選地されたことを示唆している。

芝山遺跡は、当該地における古墳時代の墳墓の変遷を知るうえで典型的な事例を提供したばかりでなく、飛鳥時代から奈良時代の官衙的な要素をもつ遺構・遺物が確認された希有な遺跡である。今後の調査事例の追加により、当該地の歴史的環境がさらに明確になるであろう。

（こいけ・ひろし＝当センター調査第２課調査第１係主任調査員）

府内遺跡紹介

96. 長岡京左京二条三・四坊
(名神高速道路京都桂川パーキング・エリア)

延暦三(784)年、桓武天皇によって長岡京造営が始められる。『続日本紀』延暦七年九月庚午条に「水陸有便、建都長岡」とあり、水陸交通の要地として遷都されたと公言されるとおり、この地の南東方には、北流する木津川と南流する桂川の合流を見る。南方には、乙訓南限となる地峡部を流れ、難波に向かう淀川の水運を利することができる。現在の行政区域では、京都市・向日市・長岡京市に広がり、宮城は眺望の良い低丘陵(向日丘陵)の段丘面に位置している。

日本道路公団では、中央自動車道西宮線(名神高速道路)の大阪茨木インターチェンジから京都南インターチェンジ間における慢性的な交通渋滞解消のため、走行車線の拡幅工事を行い、京都桂川パーキング・エリアの建設を計画した。建設予定地は、長岡京京域の一部に当たっており、平成5～9年度にかけて、当調査研究センターで高速道路のパーキング・エリア予定内全域の発掘調査を行った。調査面積は5万m²を超え、広大な区画を調査したこととなった。

この京都桂川パーキング・エリアは、京都市南区東土川町金井田・正登に位置している。長岡京の北東部、長岡宮の東にあたり、長岡京の条坊復原案によると、宮城東面街区、第2次内裏の東方、二条条間大路と東三坊大路の交差する地域となる。二条三坊十二町・二条三坊十三町・二条三坊十四町・二条三坊十五町・二条四坊二町・二条四坊三町・二条四坊六町・二条四坊七町の各宅地にあたる。とくに二条三坊十五町は宅地の大半の調査を行い、1町規模の構造を明らかにした。宅地には正殿建物や酒造施設、双堂などがみられた。1町規模の宅地班給からすれば、三位以上の公卿の邸宅と考えられる。長岡遷都時の公卿のなかで古京の宅地との対応関係から左京二条三・四坊付近に居住したものを推定すれば、造東大寺司長官や左大辨・太宰大弐を歴任し、造長岡宮使を務めた参議正三位佐伯朝臣今毛人の邸宅ではないかと考えられている。

近辺は1町あるいは1/2町規模の宅地が主体であり、それより小さな分割は認められなかった。このことは宮城東面街区が小分割を必要としない階級の宅地や宮外官衙などによって形成されたためと考えることができる。

第1図　京都桂川パーキングエリア
上り線側の築垣塀(北東から)

またこのほかに、弥生時代後期後半の方形周溝墓や、長岡京廃都後の条里制地

第２図　京都桂川パーキングエリア内における発掘調査の案内板と東三坊大路路面(南西から)

割再施行の名残りとみられる長地型の区画を示す素掘溝などが検出された。

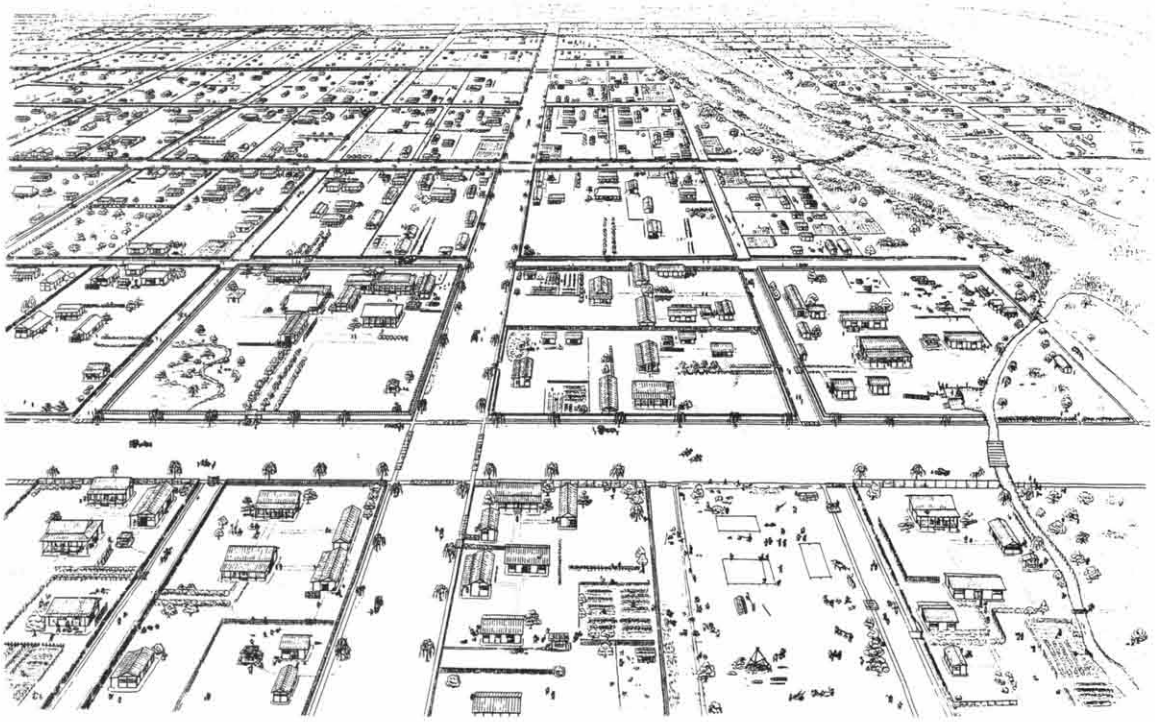
京都桂川パーキング・エリアには、この長岡京の発掘調査の成果を記念して、上り線側の北西に、当時を彷彿とさせる瓦葺築垣塀が造られている(第１図)。

発掘調査で確認された二条三坊十五町の邸宅の築垣は板葺であったと考えられるが、当時の築垣規模を考慮して模造されたものである。また、発掘調査の概要を示した案内板が設置されている(第２図)。この案内板に沿って南北に地面が暗赤褐色に塗り替えられているが、この部分が東三坊大路にあたる場所となる。

名神高速道路を御利用される際には、ぜひ京都桂川パーキング・エリアに一度お立ち寄り頂きたい。おいしいパンが評判となっている。

(野島　永)

参考文献　平良泰久「長岡京の貴紳の家」(『京都府埋蔵文化財論集』第３集　(財)京都府埋蔵文化財調研究センター)　1996


第３図　京都桂川パーキング・エリア付近の長岡京の様子(想像図)(村上優美子氏作成)
上が北。北東に桂川支流、南北に東三坊大路、東西に二条条間大路が走る。交差点の北西角地が二条三坊十五町の邸宅にあたる(『京都府遺跡調査報告書』第28冊　第71図(160頁)より転載。)

長岡京跡調査だより・86

長岡京連絡協議会の平成15年４月23日・５月28日・６月25日の月例会では、宮内５件、左京域２件、右京域13件の調査が報告された。京域外の４件を併せると合計24件となる。

調査地一覧表(2003年６月末現在)

番号	調査次数	地区名	調査地	調査機関	調査期間
1	宮内第422次	7ANFYS-2	向日市上植野町山ノ下2-12・2-18	(財)向日市埋文	4/17～5/16
2	宮内第423次	7ANBHG-3	向日市寺戸町東野辺31-8	(財)向日市埋文	5/20～
3	宮内第424次	7ANCKM-6	向日市向日町北山21	(財)向日市埋文	6/23～6/27
4	宮内第425次	7ANEYT-9	向日市鶏冠井町山畑39-5	(財)向日市埋文	6/23～6/27
5	向日市立会第03013次	7ANEDN	向日市鶏冠井町大極殿19-3	(財)向日市埋文	5/20～5/21
6	左京第472次	7ANFKW-8	向日市上植野町桑原15-2	(財)向日市埋文	4/16～5/2
7	左京第473次	7ANEVK-4	向日市鶏冠井町馬飼１	(財)向日市埋文	6/17～
8	右京第766次	7ANNDB-9	長岡京市神足二丁目地内	(財)長岡京市埋文	3/４～4/11
9	右京第767次	7ANINC-16	長岡京市今里西ノ口10-4	(財)長岡京市埋文	3/24～5/12
10	右京第768次	7ANQNM-2	長岡京市久貝三丁目127-1	(財)長岡京市埋文	4/7～4/26
11	右京第769次	7ANIHS-2	長岡京市今里樋ノ尻19-1	(財)長岡京市埋文	4/14～5/28
12	右京第770次	7ANMSM-2	長岡京市神足一丁目地内	(財)長岡京市埋文	4/22～5/30
13	右京第771次	7ANMDB-10	長岡京市神足二丁目地内	(財)長岡京市埋文	5/20～6/27
14	右京第772次	7ANUNW	京都市西京区大原野石見町地内	(財)京都市埋文研	5/12～
15	右京第773次	7ANKTD-4	長岡京市開田四丁目124-1	(財)長岡京市埋文	6/3～6/4
16	右京第774次	7ANMSL-9	長岡京市東神足一丁目1-39	(財)長岡京市埋文	6/2～
17	右京第775次	7ANUNW	京都市西京区大原野石見町地内	(財)京都市埋文研	5/22～
18	右京第776次	7ANKST-14	長岡京市開田四丁目124-1	(財)長岡京市埋文	6/16～
19	右京第777次	7ANIST-11	長岡京市今里三丁目1	(財)長岡京市埋文	6/23～
20	右京第778次 境野古墳群第３次	7ANYSN-4 4PSTSN-4	大山崎町下植野小字境野町30・32	大山崎町教委	6/9～
21	山城国府跡第67次	7XYS'FH16	大山崎町字大山崎小字藤井畑2	大山崎町教委	3/17～3/28
22	修理式遺跡第７次	3NSBKR-3	向日市寺戸町蔵ノ町5-1他	(財)向日市埋文	5/20～

23	久々相遺跡第10次	7AKBKG-6	向日市寺戸町久々相9-1・11-1・11-2	(財)向日市埋文	5/6～6/30
24	久々相遺跡第11次	7AKBKG-7	向日市寺戸町久々相9-1・11-1・11-2	(財)向日市埋文	6/10～6/30

長岡京跡発掘調査抄報

宮域　朝堂院北方官衙地区の調査(宮内第472次)では、10尺の柱間をもつ規模の大きな掘立柱建物跡や柵が検出され、その位置から平城宮の大膳職・内膳司、平安宮の内蔵寮・縫殿寮との関連が指摘されている。朝堂院西第四堂のすぐ西側の調査(宮内第425次)では、長岡京期の南北溝が数条検出された。

右京域　ＪＲ長岡京駅周辺の神足遺跡・近世勝龍寺城跡と重複する地区で４件の調査報告があった。いずれも弥生時代・長岡京期・中世・近世の遺構が検出されている。このうち、弥生時代では右京第766・774次調査地内で中期の方形周溝墓が、また、第771次では、弥生土器とともに碧玉製管玉が柱穴から出土した。長岡京期では、各地区で掘立柱建物跡などが検出されている。その中で、第771次では、建て替えを伴う東西棟の規模の大きな建物が南北に９ｍの間隔で並立しており、十一町域の宅地配置を検討するうえで重要な情報が得られた。これ以外に鎌倉時代(第770次)と江戸時代の掘立柱遺構と溝などが確認されているが、近世に降るものは、絵図面などの照合も含め、近世勝龍寺城の区画に関連するものと考えられる。今里遺跡と重なる第767次調査では、弥生中期後葉の円形竪穴式住居跡や土坑が、奈良時代・長岡京期・鎌倉時代の掘立柱建物跡などとともに検出されている。京域の北西部にあたる石見地域では、道路建設に伴う継続的な調査が行われている。このうち、第772・775次調査では、５世紀末の竈を伴う竪穴式住居跡や長岡京期の掘立柱建物跡・溝などが検出された。とくに、第772次では西三坊大路西側溝とそれに西面する宅地遺構が確認された。大路に接する側に内溝を伴う築地痕跡があり、一条大路南側溝の交点から約60ｍ南の位置に門が開く。門跡は、掘立柱による棟門から礎石建ちの四脚門への変遷が認められ、陰陽道に基づく地鎮を示す白・黒・赤石が柱抜取の際埋納されていた。第778次では、境野古墳群の調査が行われた。地形測量や掘削調査によって、境野１号墳が葺石・埴輪列を伴う前期の前方後円墳である可能性が示され、断面観察により墳丘が盛土築成されている様子が判明した。

京域外　ＪＲ向日町駅西側の久々相遺跡では、長岡京期の東一坊大路東側溝の延長線にのる溝や平安時代・鎌倉時代の溝が検出された。その西に位置する修理式遺跡第７次では大規模な調査が開始された。序盤の時点ですでに弥生～古墳時代の竪穴式住居跡・溝・土坑および長岡京期の東一坊坊間大路東側溝の延長線にのる溝と、北京極大路から北へ３本目の条坊の北側溝とみられる東西溝が検出されつつある。山崎国府跡第67次調査では、人頭大の円礫を敷き詰めた遺構が確認され、瓦類を始めとした10世紀の遺物がまとまって出土した。

(伊賀高弘)

第96回埋蔵文化財セミナー

当調査研究センターでは、設立以来、普及啓発の一環として年３回、「埋蔵文化財セミナー」(以下、埋文セミナー)を開催している。この埋文セミナーの目的は、埋蔵文化財調査への理解を深め、文化財保護に寄与することを目的としており、京都府教育委員会と共催で行っている。

この埋文セミナーは、最新の発掘調査の成果や話題になった遺跡などについて、スライドなどを用い、一般の方々にもわかりやすくをモットーに報告するもので、当調査研究センター職員のみならず外部の方にも講師をお願いしている。年３回の開催のうち、１回目は、府内の市町村の会場を借り、その地域での最近の発掘調査の成果、２回目は、当調査研究センターが毎年夏に開催している「小さな展覧会－京都府内発掘調査成果速報－」に合わせ、展示遺跡や関連遺物の紹介、３回目は恭仁宮・長岡京・平安京の３つの都城をもつ京都府の特性を活かし、古代都城に関連したテーマで、それぞれ報告を行っている。

今回は、去る６月21日に、久御山町ふれあい交流館ゆうホールを会場に行った、第96回埋蔵文化財セミナー「山城地域の古代から中世にかけての居館について」を紹介しておきたい。

京都府南部の山城地域では、ここ数年、大規模な道路建設や都市の再開発に伴う遺跡の発掘調査によって、これまで不明な部分が多かった平安～鎌倉時代に関する新たな発見が相次いでいる。今回は、３名の講師により、当時代に係わる遺跡の調査や成果についてご発表いただいた。以下、要旨のみ簡単に紹介しておきたい。

「久御山町佐山遺跡の条里と居館について」　当調査研究センター主任調査員　森島康雄

佐山遺跡は、旧巨椋池の南側に立地する弥生時代～中世の遺跡で、水陸交通の結節点に位置する。第二京阪道路に伴う調査で、条里型地割を確認した。坪境に設けられた溝は、固定したものではなく11世紀後半～15世紀の間に、東に約４ｍ移動している。Ｂ地区のＳＤ５は、条里型地割に沿って掘られ、幅８ｍ、最大幅11ｍ、深さ約２ｍを測る大規模なもので、条里の一坪分を占める方形居館を囲む濠と考える。濠は、11世紀後半に掘られるが、当初は、規模も小さく、その後、何回か掘り直しが行われ、13世紀中葉まで機能していたものと考えられる。中世の方形居館の濠としては、最古・最大のものである。濠の内側には土塁が無く、防御的性格は薄かったと思われる。洪水に対する備え(治水)や濠の一画から見つかった船着き場状の遺構の存在から、木津川・宇治川などを介した水運(交易)が主な利用目的であろう。濠内からは、これを物語る遠隔地からもたらされた遺物が多数出土している。灰釉陶器の墨書から古代には「政所」が置かれた可能性があり、居館の主については、石清水八幡宮に関する文献にあらわれる庄園の在地領主層と考えられる。

第１図　森島康雄

「八幡市域の木津川左岸における中世遺跡について」　八幡市教育委員会生涯学習課主査
八十島豊成氏

木津川左岸の沖積地に立地する中世の集落遺跡の発掘調査を中心に報告する。上津屋遺跡は、数次の発掘調査の結果から３期に分けることができる。１期は10世紀後半、２期は13世紀代、３期は15世紀を中心とした時期に想定される。調査で検出した東西方向の大溝376・168は、３期に相当するが、２期に遡る可能性がある。幅10m前後を測り、溝の断面形は「V」字形で、居館に伴う防御用の濠と考えられる。調査地の井戸から、全国的にも珍しい鎌倉時代初期の太刀の足金具が出土した。出土遺物は、13～14世紀代のものが多くこの時期に栄え、16世紀代に大溝は埋没したと考える。瓦の出土から、周辺に寺院があったことがうかがえる。古代の「奈良園」に関連する上奈良遺跡では、木造阿弥陀如来像の下半部が出土した。内里八丁遺跡では、13世紀を境に集落が移動したことがうかがえる。以上の集落の廃絶理由については、当地域で起こった争乱や木津川の氾濫に起因するものと思われる。

第２図　八十島豊成氏

「平安時代の宇治」　宇治市歴史資料館主任　杉本宏氏

平等院の発掘調査の成果から、別業(別荘)都市宇治の成立過程を論じたい。平安時代に、藤原氏が京と奈良(氏寺興福寺・氏神春日大社)への道筋として宇治に別荘を置いた。末法思想の影響を受け頼道が別業を寺(平等院)に改める(1052年)。ただし、この時期の鳳凰堂は不明な部分が多い。頼道の没後、12世紀に平等院の大改修が行われ、鳳凰堂の屋根は、檜皮葺きから瓦葺きに改修される。この際の瓦は平等院の庄園(玉串荘)で焼かれたものである。12世紀以降、宇治市街地では、急速に遺跡が増え、この頃に都市として整備されていった。同時期と思われる碁盤の目の町割りが残り、発掘調査でも確認されている。別業都市宇治の成立の背景には、藤原氏一門の精神的・政治的結集の意図ががうかがわれる。保元の乱(1156年)以降、藤原氏の勢力の縮小とともに、別業都市宇治は衰退の段階をむかえるが、新たに民衆の町として復興する。宇治橋通りを新設し、これを中心とした新たな町割りが行われ、茶生産の発展と共に、現在の宇治へと変貌を遂げる。

第３図　杉本宏氏

最後になりましたが、今回の埋文セミナー開催にご協力いただいた久御山町教育委員会にお礼申し上げます。皆様もぜひ一度ご参加下さい。

(辻本和美)

センターの動向(03.05～07)

1．できごと

5．1　里遺跡第6次(亀岡市)発掘調査開始

7　観音寺遺跡(福知山市)発掘調査開始

12　野条遺跡第8次(八木町)発掘調査開始

23　里遺跡第5次現地説明会

26　池上遺跡第16次・野条遺跡第9次(八木町)発掘調査開始

27　内田山遺跡・内田山古墳群(木津町)発掘調査開始

28　長岡京連絡協議会(於：当センター)

6．3　高橋誠一理事芝山遺跡(城陽市)現地指導

10　三角古墳群(舞鶴市)発掘調査終了(4.24～)

11　中谷雅治常務理事・事務局長、芝山遺跡現地視察

12～13　全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(於：大阪市)中谷雅治常務理事・事務局長・鍋田幸世主事出席

13　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロックＯＡ委員会(於：(財)東大阪市文化財協会)久保哲正調査第1課長、辻本和美資料係長出席

17　監事監査

19　杉原和雄理事、芝山遺跡現地指導

20　人権教育指導者研修会(於：亀岡市)水谷壽克調査第1課課長補佐、竹原一彦・戸原和人・細川康晴主任調査員出席

深澤芳樹独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所遺跡調査技術研究室長、下植野南遺跡出土遺物整理指導

21　第96回埋蔵文化財セミナー(於：久御山町ふれあい交流館ゆうホール)

23　中尾芳治理事、上原真人理事、芝山遺跡現地指導

25　人権大学講座(於：京都市)安田正人総務課長出席

長岡京連絡協議会(於：当センター)

27　第68回役員会・理事会(於：ルビノ京都堀川)上田正昭理事長、中谷雅治常務理事・事務局長、石野博信、中尾芳治、井上満郎、都出比呂志、高橋誠一、上原真人、下田元美、奥野義正、杉原和雄各理事、池田博監事出席

内田山遺跡・内田山古墳群、発掘調査終了(5.27～)

7．2　山中敏史独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部考古第3調査室長、芝山遺跡現地指導

3　河原尻遺跡(亀岡市)発掘調査開始

4　全国埋蔵文化財法人連絡協議会近畿ブロック主担者会議(於：八尾市)久保哲正調査第1課長、小山雅人調査第2課総括調査員出席

健康づくり担当者研修(京都市)石井清司調査第2課調査第3係長、今村正寿総務課主任出席

9　長岡京跡右京第781次・神足遺跡(長岡京市)発掘調査開始

10　人権大学講座(於：京都市)安田正人総務課長、久保哲正調査第1課長、長谷川達調査第2課長、石井清司調査第3係長、戸原和人主任調査員、高野陽子調査員出席

17　井上満郎理事、芝山遺跡現地指導
里遺跡第6次現地説明会

18　職員研修(於：当センター)独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財発掘技術者特別研修報告、講師：筒井崇史調査員「遺跡地図情報過程」

23　長岡京連絡協議会(於：当センター)
片山遺跡(木津町)発掘調査開始

25　人権教育指導者研修会(於：亀岡市)安田正人総務課長、久保哲正調査第1課長、奥村清一郎調査第2課課長補佐、石井清司調査第3係長、竹原一彦・細川康晴主任調査員出席

29　岡ノ遺跡(福知山市)発掘調査開始

30　池上遺跡第16次・野条遺跡第9次、発掘調査終了(5.26～)

2．普及啓発事業

6．21　第96回埋蔵文化財セミナー(於：久御山町ふれあい交流館ゆうホール)『山城地域の古代から中世にかけての居館について』：森島康雄当センター主任調査員「久御山町佐山遺跡の条里と居館について」、八十島豊成八幡市教育委員会生涯学習課主査「八幡市の木津川左岸における中世遺跡について」、杉本宏宇治市歴史資料館主任「平安時代の宇治」

受贈図書一覧(03.04～06)

釧路市埋蔵文化財調査センター

釧路市大楽毛１遺跡発掘調査報告書Ⅲ

青森県埋蔵文化財調査センター

青森県埋蔵文化財調査報告書第339集　獅子神遺跡、同第340集　宮田館遺跡Ⅱ・三本木遺跡、同第341集　西浜折曽の関遺跡、研究紀要　第８号、世増ダムの遺跡

青森県埋蔵文化財調査センター

青森県埋蔵文化財調査報告書第342集　楢館遺跡、同第344集　宮田館遺跡・米山(2)遺跡Ⅱ、同第349集　朝日山(2)遺跡Ⅵ、同第350集　朝日山(2)遺跡Ⅶ、同第352集　岩渡小谷(3)・(4)遺跡

水沢市埋蔵文化財調査センター

胆沢城跡―平成９年度発掘調査概報、水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書第16集　林前南館跡、同第17集　下植田遺跡

(財)山形県埋蔵文化財センター

研究紀要　創刊号

(財)いわき市教育文化事業団

いわき市埋蔵文化財調査報告第12冊　愛谷遺跡、同第24冊　番匠地遺跡・久世原館跡、同第76冊　小茶円遺跡、同第97冊　湯長谷館跡・磐崎中学校遺跡、同第80冊　稲荷原遺跡、同第84冊　荒田目条里制遺構・砂畑遺跡、同第85冊　植田郷Ｂ遺跡、同第92冊　泉・渡辺町条里制跡、同第93冊　綱取貝塚、同第94冊　平成14年度市内遺跡試掘調査報告、同第95冊　折返Ａ遺跡・菅俣Ｂ遺跡、同第96冊　入藪Ｂ遺跡、同第98冊　梅ノ作瓦窯跡群、夏井廃寺

(財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団

鹿島町の文化財第55集　国神遺跡Ⅳ、同第56集　根畑遺跡発掘調査報告書、同第86集　鹿島神宮駅前北部埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ、鹿嶋市の文化財第114集　日光山古墳群遺跡発掘調査報告書

(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査事務所

(財)ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第27集　ぼんぼり山遺跡・狢谷津遺跡、同第28集　向野Ⅴ

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第290集　上滝榎町北遺跡、同第293集　西田遺跡・村中遺跡、同第307集　波志江西宿遺跡(古墳時代・中近世編)・伊勢山遺跡、同第311集　徳丸仲田遺跡(2)、同第308集　光仙房遺跡、同第313集　菅谷石塚遺跡、同第314集　青梨子上屋敷遺跡・金古北十三町遺跡２、平成13年度地域教材開発研究・研修報告書、年報21、埋蔵文化財と学校教育―報告書

(財)千葉県文化財センター

千葉県文化財センター調査報告第459集　千葉県所在洞穴遺跡・横穴墓群詳細分布調査報告書

(財)千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センター

財団法人千葉市文化財調査協会年報14、同15、千葉市生実城跡、川崎遺跡・草刈場北遺跡・味噌草野遺跡、土気東遺跡群Ⅰ、千葉市都町山王遺跡、千葉市内野第１遺跡発掘調査報告書、千葉市後谷遺跡

(財)船橋市文化・スポーツ公社埋蔵文化財センター

埋蔵文化財センター調査報告第５集　印内台遺跡群(21)、同第６集　東中山台遺跡群(10)、同第10集　台畑遺跡(2)、同第15集　夏見台遺跡(20)、同第16集　北台次遺跡、同第17集　夏見台遺跡(24)、同第18集　夏見大塚遺跡、同第19集　向遺跡、同第20集　印内台遺跡群(20)、同第22集　東中山台遺跡群(18)、同第23集　夏見大塚遺跡(16)

(財)市原市文化財センター

(財)市原市文化財センター調査報告書第82集　市原市加茂遺跡Ｄ地点、上総国分寺台遺跡調査報告書Ⅸ、年報(平成12年度)、研究紀要Ⅳ、発掘ってなあに　第３号

(財)印旛郡市文化財センター

(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第47集　龍腹寺１号塚・天王前遺跡発掘調査報告書、同第86集　中沢野馬木戸遺跡発掘調査報告書、同第102集　一之綱Ⅱ遺跡・一之綱Ⅲ遺跡、同第143集　大袋腰巻遺跡(第11次)、同第156集　南羽鳥遺跡群Ⅳ、同第169集　川栗遺跡群Ⅱ、同第187集　曾谷ノ窪瓦窯跡(第２地点)、同第188集　大久保遺跡(第２・３地点)、同第191集　内田端山越窯跡、同第192集　吉見稲荷山(第５次)、同第194集　六崎貴舟台遺跡(第10次)、同第197集　下金山城跡、同第198集　生谷松山遺跡(第２次)、年報18

(財)東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター

東京都埋蔵文化財センター調査報告第110集

多摩ニュータウン遺跡、同第121集　多摩ニュータウン遺跡、同第124集　狭山遺跡、同第125集　汐留遺跡Ⅲ、同第126集　八王子市戸吹遺跡、同第128集　多摩ニュータウン遺跡、同第129集　多摩ニュータウン遺跡、同第131集　大六天遺跡、同第132集　多摩ニュータウン遺跡、同第133集　大橋遺跡、多摩の遺跡と遺物、資料目録13、要覧　平成15年度

(財)かながわ考古学財団

かながわ考古学財団調査報告128　用田鳥居前遺跡、同144　長坂宮ノ前やぐら群、同145　竹の谷戸やぐら、同146　白山神社前遺跡所在やぐら、同147　走水神社やぐら群、同148　和田山やぐら群遺跡Ⅲ、同149　腰越東横穴墓、同150　田戸台横穴墓群、同152　白幡浦島丘遺跡

(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

牢尻台遺跡(防火水槽設置地点)本格調査概報

明野村埋蔵文化財センター

明野村文化財調査報告12　深山田遺跡と中世修験道、同15　梅之木遺跡Ⅱ

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

新潟県埋蔵文化財調査報告書第114集　岩倉遺跡、同第119集　北野遺跡Ⅰ(下層)、同第120集　下割遺跡Ⅰ、同第121集　円山遺跡、同第122集　堀向瓦窯跡、同第126集　浦廻遺跡、同第127集　道端遺跡Ⅱ、研究紀要　第4号

(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第17集　江尻遺跡・簑島遺跡発掘調査報告、同第18集　中名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告

富山市埋蔵文化財センター

富山市考古資料館紀要　第22号、富山市埋蔵文化財調査報告114　富山市向野池遺跡発掘調査報告書、同125　富山市栃谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ、同126　富山市開ヶ丘中山Ⅲ遺跡・開ヶ丘狐谷Ⅲ遺跡・開ヶ丘ヤシキダ遺跡発掘調査報告書、同129　富山市内遺跡発掘調査概要Ⅴ、同130　富山市北押川C遺跡発掘調査報告書

金沢市埋蔵文化財センター

金沢市文化財紀要191　高岡町遺跡Ⅱ、同192　上安原遺跡Ⅰ、同193　上安原遺跡Ⅱ、同194　昭和町遺跡Ⅱ、同195　本町一丁目遺跡Ⅲ、同196　大友西遺跡Ⅲ、同197　畝田大徳川遺跡、同198　田上北遺跡・田上東遺跡、同199　堅田B遺跡Ⅰ、同200　野田山墓地、同201　大桑ジョウデン遺跡Ⅰ、同202　横川・本町遺跡、同203　中屋東遺跡、同204　東長江遺跡、同205　平成14年度金沢市埋蔵文化財調査年報

(財)岐阜市教育文化振興事業団

(財)岐阜市教育文化振興事業団報告書第10集　鷺山仙道遺跡、同第11集　平成13・14年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書

各務原市埋蔵文化財調査センター

各務原市文化財調査報告書第36号　鵜沼西町古墳発掘調査報告書、同第37号　伊木山城址発掘調査報告書

沼津市文化財センター

沼津市文化財調査報告書第66集　鳥沢遺跡発掘調査報告書、同第70集　埋蔵文化財発掘調査報告書、同第71集　西洞遺跡(b区-2)発掘調査報告書、同第75集　鳥谷アラク遺跡発掘調査報告書、同第76集　北神馬土手遺跡・尾上Ⅱ橋遺跡発掘調査報告書、同第77集　葛原沢第Ⅳ遺跡(a・b区)発掘調査報告書1

(財)愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第98集　郷上遺跡、同第99集　清洲城下町遺跡Ⅷ、同第101集　平手町遺跡、同第102集　矢迫遺跡、同第103集　川田遺跡、同第104集　寄元古墳群・上ノ段遺跡、同第105集　今町遺跡、同第113集　東端城跡・御船城跡・矢並下本城、同第115集　名古屋城三の丸遺跡(Ⅵ)、年報　平成14年度、研究紀要　第4号、愛知県埋蔵文化財情報18

三重県埋蔵文化財センター

三重県埋蔵文化財調査報告115-16　六大A遺跡発掘調査報告、同186-6　覚正垣内遺跡発掘調査報告、同227-2　伊坂城跡発掘調査報告、同240　市場遺跡発掘調査報告、同241　田面遺跡発掘調査報告、同243　山添遺跡(第3次)発掘調査報告、同245　野添遺跡発掘調査報告、埋蔵文化財保護の手引き

松阪市文化財センター

はにわ館開館記念図録、東海の埴輪と宝塚古墳

大津市埋蔵文化財調査センター

大津市埋蔵文化財調査報告書34　坂本遺跡群発掘調査報告書

(財)大阪府文化財センター

(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書第70集　伽羅橋、同第79集　池島・福万寺遺跡2、同第84集　粟生間谷遺跡、同第86集　粟生岩阪北遺跡・宿久庄北遺跡・佐保遺跡、同第87集　泉佐野市湊・旭町・大宮町所在、同第89集　豊川遺跡、同第90集　大和川今池遺跡(その5・その6・その7)、同第95集　玉櫛遺跡Ⅱ、同第96集　駒ヶ谷遺跡Ⅲ、大阪文化財研究　第23号

(財)大阪市文化財協会

大坂城跡Ⅵ、天満本願寺跡発掘調査報告Ⅴ、長原・瓜破遺跡発掘調査報告ⅩⅨ、長原・瓜破遺跡発掘調査報告ⅩⅩ、加美遺跡発掘調査報告Ⅰ、長原遺跡発掘調査報告Ⅹ、長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅵ、喜連東遺跡発掘調査報告Ⅰ、大阪市歴史博物館　研究紀要第1号

(財)東大阪市文化財協会

瓜生堂遺跡第45次発掘調査概要報告書、鬼塚遺跡第14次試掘調査概要、鬼塚遺跡第13次(遺構編)・第22次発掘調査報告書、鬼塚遺跡発掘調査報告集、みかん山古墳群第1次発掘調査報告書、美園遺跡第1次発掘調査報告、段上遺跡第3・4次発掘調査報告書、西ノ辻遺跡12～15次調査概要報告、西ノ辻遺跡第39次発掘調査報告、船山遺跡第3次・神並遺跡第23次発掘調査報告書、神並遺跡第17次発掘調査報告、若江北遺跡第4次発掘調査報告、上小阪遺跡東端部における弥生時代後期以後の遺構群、客坊寺跡西縁部の中・近世遺構、楽音寺遺跡第1・2次発掘調査報告書、共同住宅建設に伴う楽音寺遺跡第3次発掘調査報告書、鬼虎川遺跡第22次調査概要報告、鬼虎川遺跡第41次発掘調査報告、鬼虎川遺跡第46次発掘調査報告書、鬼虎川遺跡第47次発掘調査報告、客山坊遺跡群第3次発掘調査報告書、神並・西ノ辻・鬼虎川・水走遺跡調査報告書、小若江遺跡第2次発掘調査報告書、巨摩廃寺遺跡第6次発掘調査報告書、弥刀遺跡第8次発掘調査概要報告書、植附遺跡発掘調査集、植附遺跡第11次発掘調査報告、意岐部遺跡第5次発掘調査報告書、皿池遺跡第4次発掘調査報告、宮ノ下遺跡第11次発掘調査報告書、若江遺跡発掘調査集

(財)元興寺文化財研究所

元興寺発掘

奈良市埋蔵文化財調査センター

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書　平成12年度、紀要2001、平城京跡出土墨書土器資料Ⅰ

(財)鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

笠見第3遺跡、茶畑第1遺跡、古御堂笹尾山遺跡、鳥取県教育文化財団調査報告書80　井図地頭遺跡・井図地中ソネ遺跡、同81　妻木法大神遺跡、同82　名和衣装谷遺跡・古御堂金蔵ヶ平遺跡、同83　名和乙ヶ谷遺跡、同84　吉谷遺跡群、同85　橋本遺跡群

(財)松江市教育文化振興事業団

松江市文化財調査報告書第94集　市道春日東生馬線道路改良工事に伴う法吉遺跡発掘調査報告書

倉敷埋蔵文化財センター

倉敷埋蔵文化財発掘調査報告第10集　寒田窯跡群4号

(財)広島県埋蔵文化財調査センター

広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第202集　灰塚ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅳ)、同第209集　布掛遺跡・大仙1号遺跡・大仙2号遺跡発掘調査報告書

(財)広島県教育事業団埋蔵文化財調査室

(財)広島県教育事業団発掘調査報告書第1集　近世山陽道路・日向一里塚・石立炭窯跡

山口県埋蔵文化財センター

山口県埋蔵文化財センター調査報告第34集　東禅寺・黒山遺跡、同第35集　矢田遺跡、同第36集　中院遺跡、同第37集　竜王南遺跡Ⅱ、同第38集　吉永遺跡、同第39集・山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第22集　下太田遺跡

(財)徳島県埋蔵文化財センター

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第33集　矢野遺跡(Ⅰ)、同第37集　大柿遺跡Ⅰ、同第44集　矢野遺跡(Ⅱ)、同第45集　丸山遺跡、同第47集　徳島城下町遺跡、年報　Vol.13

(財)香川県埋蔵文化財調査センター

原間遺跡Ⅱ、樋端遺跡、迯田石垣遺跡・迯田谷川下遺跡・鹿庭遺跡、小谷窯跡・塚谷古墳、中東遺跡、高松城跡(丸の内地区)、研究紀要Ⅹ

(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター

埋蔵文化財発掘調査報告書第103集　常定寺遺跡・音地遺跡・伊崎越遺跡、同第104集　永地遺跡、同第105集　道後今市遺跡13次、同第106集　中尾山遺跡1次・2次、同第107集　久米窪田Ⅳ遺跡2次、同第108集　山越遺跡4次、紀要愛媛　第3号

(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室

北九州市埋蔵文化財調査報告書第287集　上貫(C)遺跡5、同第288集　長野尾登遺跡第3地点2、同第289集　横代堂ノ前遺跡(2区～5区)、同第290集　上清水遺跡Ⅵ区、同第291集　片野遺跡第3次、同第292集　金丸遺跡4、同第293集　小倉城代米御蔵跡、同第294集　志井雀木遺跡、同第295集　横代峠遺跡、同第296集　朽網南塚遺跡、同第297集　加治屋敷遺跡2区・3区、同第298集　竪町遺跡第2地点、同第299集　洗子窯跡、同第300集　重留遺跡第7地点、同第301集　長野フンデ遺跡3、同第302集　横代堂ノ前遺跡1区、同第303集　重留遺跡第4地点、同第304集　三郎丸遺跡第2地点、同第305集　寺町遺跡2(1～4区の調査)、研究紀要　第17号、埋蔵文化財調査室年報19

久留米市埋蔵文化財センター

久留米市文化財調査報告書第185集　久留米城下町遺跡、同第186集　京隈侍屋敷遺跡第３次調査、同第187集　久留米城外郭遺跡第７次調査、同第188集　日渡遺跡群、同第189集　久留米市埋蔵文化財調査集報Ⅴ、同第190集　碇遺跡、同第191集　金丸遺跡Ⅲ、同第192集　道蔵遺跡第14次調査概要報告、同第193集　筑後国府跡、同第194集　平成14年度久留米市内遺跡群

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第65集　鴇尾遺跡・坂ノ下遺跡、同第66集　右葛ヶ迫遺跡(第２次調査)、同第67集　教塚遺跡・栃屋遺跡・大郎遺跡、同第68集　上日置城空堀跡、同第69集　桑ノ木遺跡、同第70集　八幡遺跡、同第71集　阿蘇原上遺跡、同第72集　瀬戸前１号横穴墓・瓜生野村古墳30号(横穴墓)、同第73集　祇園原遺跡・春日地区遺跡第２地点、同第74集　布平遺跡・古城遺跡、同第75集　五ヶ村遺跡・大野原遺跡、同第76集　東九州自動車道(都農～西都間)関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅲ

鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(46)　三角山Ⅰ遺跡(Ｐ地点)、同(47)　鳴野原遺跡、同(48)　垂水・宮之城島津家屋敷跡、同(49)　市ノ原遺跡第１地点、同(50)　犬ヶ原遺跡、同(51)　鍋尾遺跡、同(52)　上野原遺跡、同(53)　雪山遺跡・猿引遺跡、同(54)　中原遺跡、同(55)　森遺跡・白金原遺跡、同(56)　前畑遺跡、同(57)　楠元遺跡・城下遺跡、同(58)　山ノ脇遺跡・石坂遺跡・西原遺跡、同(59)　武Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡、同(60)　城ヶ尾遺跡Ⅰ、同(61)　高篠坂遺跡、同(62)　上ノ原遺跡、縄文の森から　創刊号

千歳市教育委員会埋蔵文化財センター

千歳市文化財調査報告書ＸＸⅨ

泊村教育委員会

滝ノ澗遺跡

岩手県教育委員会

平泉文化研究年報　第３号、岩手県文化財調査報告書第117集　柳之御所遺跡

さいたま市教育委員会

さいたま市内遺跡発掘調査報告書第２集　東裏遺跡(第６次調査)・円正寺遺跡(第４次調査)・附島遺跡(第３・４次調査)・並木貝塚(第１次調査)・宿宮前遺跡(第３・４次調査)

富士見市教育委員会

富士見市文化財報告第55集　富士見市内遺跡ＸⅠ

志木市教育委員会

志木市の文化財第35集　志木市遺跡群13

千葉市教育委員会

市内遺跡報告書第14冊　埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書、同第15冊　埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

印西市教育委員会

平成14年度　印西市内遺跡発掘調査報告書

富津市教育委員会

平成14年度　富津市内遺跡発掘調査報告書

木更津市教育委員会

木更津市文化財調査集報７、請西遺跡群発掘調査報告書Ⅷ

目黒区教育委員会

目黒区埋蔵文化財発掘調査報告書第18集　東京都目黒区　東山貝塚遺跡６

北区教育委員会

北区埋蔵文化財調査報告第31集　御殿前遺跡Ⅶ、同第32集　南橋遺跡Ⅲ・宿遺跡Ⅱ

日野市教育委員会

日野市埋蔵文化財発掘調査報告46　四ッ谷前遺跡、同75　七ツ塚遺跡12、同76　七ツ塚遺跡13、南広間地遺跡第53次調査、落川遺跡、南広間地遺跡、平山遺跡、姥久保Ⅱ

八王子市教育委員会

打越小ザス遺跡、石川遺跡発掘調査報告書、日南田遺跡(第２次)

狛江市教育委員会

狛江市文化財調査報告書第20集　狛江市埋蔵文化財調査概報Ⅴ、同第21集　狛江市埋蔵文化財調査概報Ⅵ、三長西遺跡

神奈川県教育委員会

神奈川県埋蔵文化財調査報告45

藤沢市教育委員会

藤沢市文化財調査報告書第38集　西富貝塚

長坂町教育委員会

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第20集　紺屋遺跡第１次発掘調査報告書、同第22集　小屋敷遺跡第２次発掘調査

八代町教育委員会

八代町埋蔵文化財調査報告書第13集　梨木遺跡、同第14集　堀川遺跡、同第15集　金地蔵遺跡、同第16集　四反田遺跡・東小山Ｂ遺跡・東小山Ｃ遺跡

岡谷市教育委員会

小田井・志平遺跡発掘調査報告書(概報)、志平遺跡発掘調査報告書(概報)、郷土の文化財23

広畑遺跡

佐久市教育委員会

佐久市文化財年報10、佐久市埋蔵文化財調査報告書第94集　聖石遺跡、同第95集　市内遺跡発掘調査報告書2000、同第96集　上木戸遺跡、同第97集　久禰添遺跡、同第98集　深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ、同第99集　中道遺跡Ⅱ、同第100集　野沢館跡Ⅲ、同第101集　深堀遺跡Ⅳ、同第102集　円正坊遺跡Ⅳ、同第103集　聖原、同第104集　聖石遺跡Ⅱ

伊那市教育委員会

大原遺跡

新発田市教育委員会

新発田市埋蔵文化財調査報告第22　山ノ下遺跡・坂ノ沢D遺跡・岩ノ沢遺跡、同第25　二タ子沢C遺跡発掘調査報告書、同第27　桑ノ口遺跡

中条町教育委員会

中条町埋蔵文化財報告書第26集　中倉遺跡6次・8次・築地原遺跡2次、同第27集　二軒茶屋遺跡

魚津市教育委員会

松倉城墓群発掘調査報告Ⅱ

婦中町教育委員会

南部Ⅰ遺跡発掘調査報告Ⅲ、鍛冶町遺跡発掘調査報告

松任市教育委員会

松任市倉光館跡遺跡・宮永雁堀遺跡Ⅱ・宮永ほじ川遺跡Ⅳ・安田三郎惟光館跡遺跡、松任市竹松遺跡Ⅱ

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

第18回福井県発掘調査報告会資料

勝山市教育委員会

勝山市埋蔵文化財調査報告第13集　猪口南幅遺跡、同第14集　平泉寺広野遺跡、白山文化フォーラムin勝山'01報告書

鯖江市教育委員会

鯖江市埋蔵文化財調査報告第4集　吉江藩館跡・下野田遺跡、同第5集　西番遺跡、同第6集　兜山古墳

美浜町教育委員会

美浜町埋蔵文化財調査報告第5集　美浜町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ

朝日町教育委員会

朝日町文化財調査報告書第3集　朝日山

池田町教育委員会

本郷城跡・太郎ヶ城跡発掘調査報告書

富加町教育委員会

富加町文化財報告書第16号　半布里遺跡範囲確認調査2

磐田市教育委員会

東部地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書

三島市教育委員会

文化財年報―第14号、三島市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅷ、箱根田遺跡発掘調査報告書

菊川町教育委員会

菊川町埋蔵文化財報告書第67集　皿山古窯跡群発掘調査

豊橋市教育委員会

豊橋の環境史と貝塚、豊橋市埋蔵文化財調査報告書第69集　小谷古窯、同第70集　日南坂1号墳・神ヶ谷遺跡、同第71集　馬越北山古墳群(Ⅰ)、同第72集　白山Ⅰ・Ⅱ遺跡・西南代遺跡・城戸中遺跡・大蚊里貝塚、同第73集　本郷遺跡(Ⅲ)

吉良町教育委員会

正法寺古墳2次調査概要

四日市市教育委員会

一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ

上野市教育委員会

上野市文化財調査報告72　十王下遺跡発掘調査報告・百田氏館跡発掘調査報告、上野市埋蔵文化財年報9

草津市教育委員会

発掘された野路岡田、草津市文化財調査報告書第51集　平成13年(2001年)度草津市文化財年報、同第52集　野路小野山製鉄遺跡発掘調査報告書

近江町教育委員会

近江町文化財調査報告書第21集　近江町埋蔵文化財調査集報3、同第24集　息長古墳群3

中主町教育委員会

中主町文化財調査報告書第60集　平成11年度中主町内遺跡発掘調査年報、同第64集　平成13年度中主町内遺跡発掘調査年報

大阪市教育委員会

大阪の歴史と文化財　第11号

岸和田市教育委員会

岸和田市文化財調査概要29、第15回濱田青陵賞授賞式、なにがわかった？アジアと日本の古代像

枚方市教育委員会

枚方市文化財調査報告第41集　枚方市埋蔵文化財発掘調査概要2002、村野村高札場保存修理工事概報、検証　古代日本と百済

高槻市教育委員会

高槻市文化財調査概要ＸＸＸ　嶋上遺跡群27、史跡・今城塚古墳

高石市教育委員会

高石市文化財発掘調査概要2002-1　大園遺跡他の発掘調査概要

和泉市教育委員会

和泉市埋蔵文化財発掘調査概報13、万町北遺跡

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市文化財報告書27　平成14年度狭山藩陣屋跡発掘調査報告書Ⅱ、同28　大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書13、同29　狭山藩陣屋跡発掘調査概要報告書Ⅳ

貝塚市教育委員会

貝塚市埋蔵文化財調査報告第47集　三ヶ山西遺跡発掘調査概要

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

兵庫県文化財調査報告第78冊　鈩田遺跡、同第94冊　福田片岡遺跡、同第96冊　板井寺ケ谷遺跡、同第99冊　深田遺跡・カナゲ田遺跡、同第101冊　有馬・泉田遺跡、同第124冊　西木之部遺跡、同第127冊　箱塚古墳群、同第135冊　玉津田中遺跡、同第142冊　堂山遺跡、同第162冊　楠・荒田町遺跡、同第174冊　法鑑遺跡、同第174冊　白沢放山遺跡(白沢６号窯)、同第192冊　福島平唐山遺跡・福島古墳群・福島龍王谷遺跡、同第205冊　梶下ケ谷遺跡、同第207冊　有岡城跡・伊丹郷町Ⅲ、同第216冊　八多中遺跡発掘調査報告書、同第232冊　上脇遺跡Ⅰ、同第233冊　上脇遺跡Ⅱ、同第238冊　和田神社遺跡、同第239冊　勝手野古墳群、同第241冊　梅田東古墳群、同第243冊　兵庫津遺跡Ⅰ、同第244冊　天神前遺跡・山中遺物、同第245冊　北田遺跡、同第246冊　十倉遺跡、同第247冊　田中一の坪遺跡、同第248冊　西後明40号窯、同第249冊　東中道ノ坪遺跡、同第250冊　八上上遺跡、同第251冊　境谷遺跡、同第252冊　播磨国分尼寺跡、同第253冊　緑ヶ丘窯址群Ⅲ、同第254冊　明石城武家屋敷跡Ⅱ、同第255冊　北谷・中西台地遺跡、同第256冊　六条遺跡、同第257冊　梅田古墳群Ⅱ、同第258冊　太市中古墳群、同第259冊　カヤガ谷墳墓群・大谷墳墓群・坪井遺跡、洲本市文化財調査報告第９冊・兵庫県文化財調査報告第260冊　二ツ石戎ノ前遺跡、同第10冊・同第261冊　中津原遺跡、茶すり山古墳

姫路市教育委員会

TSUBOHORI　平成13年度

加古川市教育委員会

加古川市文化財調査報告17　手末遺跡発掘調査報告書

竹野町教育委員会

竹野町文化財調査報告書第14集　美久仁城址、同第15集　森脇Ｂ遺跡

太子町教育委員会

太子町文化財資料第68集　松尾寺跡遺跡・斑鳩寺遺跡

加東郡教育委員会

加東郡埋蔵文化財報告29　黒谷・岡ノ上遺跡、同30　埋蔵文化財調査年報2001年度

御所市教育委員会

御所市文化財調査報告書第26集　巨勢山古墳群Ⅳ、同第27集　鴨都波16次発掘調査報告

橿原市教育委員会

橿原市埋蔵文化財調査概要20　橿原市埋蔵文化財発掘調査概報平成14年度

田原本町教育委員会

田原本町埋蔵文化財調査年報11、たわらもと2002、2000年の時間を超えて

和歌山県教育委員会

和歌山県埋蔵文化財調査年報　平成13年度

松江市教育委員会

松江市文化財調査報告書第93集　山津窯跡調査報告書

出雲市教育委員会

小浜山横穴墓群、天神遺跡第８次発掘調査報告書、三谷遺跡・藤廻遺跡・長廻遺跡・大井谷Ⅱ遺跡・瀧谷山城跡、池田古墳、塩冶判官館跡、出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書　第13集

寄島町教育委員会

寄島町埋蔵文化財発掘調査報告１　福井山遺跡

勝央町教育委員会

勝央町文化財調査報告５　国司尾遺跡

阿東町教育委員会

阿東町埋蔵文化財調査報告第３集　阿東町の文化財

香川県教育委員会

高松城跡(西の丸町Ｄ地区)、村松遺跡・積浦遺跡、埋蔵文化財試掘調査報告ＸⅥ、香川県中世城館詳細分布調査報告、香川県埋蔵文化財調査年報　平成13年度

高松市教育委員会

高松市埋蔵文化財調査報告第60集　天満・宮西遺跡、同第61集　高松城跡(松平大膳家中屋敷跡)、同第62集　史跡天然記念物屋島、同第63集　史跡高松城跡地久櫓台発掘調査概報、同第64集　高松市内遺跡発掘調査概報、同第65集　紺屋町遺跡

三木町教育委員会

西土居遺跡群

今治市教育委員会

今治市埋蔵文化財調査報告書第68集　市内遺跡試掘確認調査報告書ＸＶ、同第69集　市内遺跡試掘確認調査報告書ＸⅥ、同第70集　高橋岡ノ端遺跡

松野町教育委員会

松野町文化財調査報告書第11集　河後森城跡環境整備事業概要報告書Ⅱ

南国市教育委員会

南国市埋蔵文化財調査報告書第20集　泉ヶ内遺跡、同第21集　土佐国衙跡発掘調査報告書

奈半利町教育委員会

奈半利町埋蔵文化財発掘調査報告書第１集　コゴロク遺跡群

春日市教育委員会

春日市文化財調査報告書第35集　伯玄社遺跡、春日市埋蔵文化財年報10

筑後市教育委員会

筑後市文化財調査報告書第46集　西牟田上京手遺跡、同第47集　羽犬塚中道遺跡、同第48集　羽犬塚山ノ前遺跡、同第49集　羽犬塚源ヶ野遺跡、同第50集　筑後西部第２地区遺跡群Ⅵ、同第51集　筑後西部第２地区遺跡群Ⅶ、同第52集　筑後市内遺跡群Ⅴ、同第53集　水田天満宮本殿保存修理工事報告書

志免町教育委員会

志免町文化財調査報告書第14集　横枕遺跡Ⅲ

北野町教育委員会

北野町文化財調査報告書第15集　大城小学校校庭遺跡

稲築町教育委員会

沖出古墳公園整備事業報告書、同概要版

那珂川町教育委員会

那珂川町文化財調査報告書第60集　大牟田遺跡群、同第61集　片縄山古墳群、丸ノ口古墳群保存整備事業報告書

新吉富村教育委員会

新吉富村文化財調査報告書第16集　宇野地区遺跡群Ⅴ

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第132集　吉野ヶ里遺跡、同第146集　杉籠遺跡、吉野ヶ里遺跡―日本最大の環壕集落跡

唐津市教育委員会

唐津市文化財調査報告書第107集　唐津市内遺跡確認調査(19)、同第108集　鶏ノ尾遺跡(1)、同第109集　鶏ノ尾遺跡(2)、同第110集　徳蔵谷遺跡(4)、同第111集　半田引地遺跡・半田大園遺跡

人吉市教育委員会

人吉市文化財調査報告書第20集　大野遺跡群、同第21集　史跡人吉城跡ＸⅠ、鍋の口遺跡、ひとよし歴史研究　第６号

菊池市教育委員会

木柑子遺跡群

大分県教育委員会

大分県文化財調査報告書第149輯　葛木遺跡、同第150輯　八坂の遺跡、同第151輯　和泉第１遺跡・和泉第２遺跡・東カヤノ原遺跡、同第152輯　上松岡遺跡、同第153輯　槙遺跡、同第154輯　照湯遺跡、同第155輯　又江遺跡、同第156輯　野村台遺跡、同157輯　古田遺跡、同第158輯　坂手前遺跡、同第159輯　寺畑遺跡、同第160輯　大分の中世城館、同第161輯　大分の中世城館、大分県文化財年報11

大分市教育委員会

園遺跡、豊後国分寺跡、下郡遺跡群、城南遺跡、府内城・城下町遺跡、長迫遺跡、野大友館(上原館)跡(1)、同(2)、大友館跡発掘調査概報Ⅰ、同Ⅱ、大友府内４、国指定史跡亀塚古墳整備事業報告、都市と交易、玉沢地区条里跡遺跡第２次調査報告書、古代海部の再現、市内遺跡確認調査概報―2001年度、大分市埋蔵文化財調査年報10、同12、大分市の文化財1997

中津市教育委員会

中津市文化財調査報告第28集　石堂池遺跡、同第29集　停車場遺跡、同第30集　2002年度中津地区遺跡群発掘調査概報(ＸＶ)

三重町教育委員会

三重地区遺跡群発掘調査概報Ⅵ、同Ⅶ

三光村教育委員会

三光村文化財調査報告書第４集　三光村の遺跡

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書第54集　史跡　生目古墳群、同第55集　宮脇第２遺跡、同第56集　北中遺跡Ⅲ

串間市教育委員会

串間市文化財調査報告書第24集　市内遺跡発掘調査報告書

三股町教育委員会

三股町文化財調査報告書第５集　三股町内遺跡Ⅲ

清武町教育委員会

清武町埋蔵文化財調査報告書第４集　角上原遺跡群Ⅱ、同第９集　坂元遺跡、同第10集　上猪ノ原遺跡１、同第11集　上猪ノ原遺跡２

田野町教育委員会

田野町文化財調査報告書第45集　高野原遺跡B・C区(2)、同第46集　高野原遺跡B・C区(3)、同第47集　鹿村野地区遺跡

岩手県立博物館
平成14年度　年報、研究報告　第20号
陸前高田市立博物館
紀要　第7号、同第8号
北上市立博物館
北上地方の水田開発史(前編)、研究報告書　第14号
(社)日本金属学会附属金属博物館
金属博物館紀要　第36号
山形県立博物館
小山崎遺跡調査報告書　CD-ROM版
米沢市上杉博物館
いにしえのロマン
土浦市立博物館
紀要　第13号
栃木県立博物館
氷河時代の狩人たち、研究紀要－人文－第20号
埼玉県立さきたま資料館
調査研究報告　第16号
国立歴史民俗博物館
はにわ－形と心－
千葉市立加曽利貝塚博物館
貝塚博物館紀要　第30号
(財)出光美術館
館報　第122号
(財)府中文化振興財団府中市郷土の森博物館
武蔵の国府と国分寺、年報　第16号、紀要　第16号
青梅市郷土博物館
平成13年度　青梅市埋蔵文化財調査概要、下内遺跡(第3次)
新島村博物館
新島村史　資料編Ⅳ、平成13年度　年報
横浜市歴史博物館
資料目録　第10集、紀要　第6号、年報　平成13年度版、たのしい考古学、東へ西へ、屋根裏の博物館、江戸時代の獅子ヶ谷村、獅子ヶ谷村横溝家史料集
茅ヶ崎市文化資料館
調査研究報告11
長野県立歴史館
研究紀要　第9号
松本市立考古博物館
松本市文化財調査報告No.163　伊勢町26・27・28次試掘調査報告書、同No.164　堀の内遺跡Ⅲ緊急発掘調査報告書
茅野市尖石縄文考古館
特別史跡尖石遺跡―平成13年度記念物保存修理事業(環境整備)に係る試掘調査報告書、特別史跡尖石遺跡―同平成14年度
新潟県立歴史博物館
研究紀要　第4号
石川県立歴史博物館
紀要　第15号、いしかわの歌仙絵馬
名古屋市博物館
研究紀要　第26巻
豊田市郷土資料館
豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第21集　梅坪遺跡Ⅶ、同第22集　勘八2号墳・滝1号墳発掘調査報告書
滋賀県立安土城考古博物館
日継ぎ知らず可き王無し、常設展示案内、平成14年度　年報、紀要　第11号
大阪府立弥生文化博物館
弥生創世記―検証・縄文から弥生へ―
大阪府立近つ飛鳥博物館
黄泉のアクセサリー
岸和田市立郷土資料館
短冊優品展Ⅲ―近現代
吹田市立博物館
館報3、古代祭祀を語る、山寺の聖たち
西脇市郷土資料館
西脇市文化財調査報告書第12集　西脇市古墳調査集報
播磨町郷土資料館
館報　平成14年度
橋本市郷土資料館
館報　第17号、大和街道てくてく散歩
鳥取県立博物館
古代寺院関係資料集
高松市歴史資料館
メモリー～映画・映像の文化～、彦根城博物館所蔵　彦根藩井伊家の名宝、年報　平成12・13年度
福岡市博物館
収蔵品目録17、研究紀要　第12号、年報9、同10
佐賀県立博物館・佐賀県立美術館
調査研究書　第27集、年報　第32号
太宰府市文化ふれあい館
太宰府の文化財第65集　太宰府・佐野地区遺跡群15、同第66集　太宰府・佐野地区遺跡群16、同第67集　水城跡2、同第68集　連歌屋遺跡1、平成13年度　太宰府市文化ふれあい館年報

壱岐郷土館
郷ノ浦町文化財調査報告書第５集　戸田遺跡・車出遺跡

東北学院大学学術研究会
東北学院大学論集―歴史学・地理学―第36号
山形大学歴史・地理・人類学研究会
山形大学歴史・地理・人類学論集　第４号
筑波大学歴史・人類学系
先史学・考古学研究　第14号
千葉大学文学部考古学研究室
こうもり穴洞穴第２次発掘調査概報
東京都立大学人文学部考古学研究室
人類誌集報2002
白山史学会
白山史学　第39号、東洋大学文学部紀要　第56集
國學院大學考古学資料館
國學院大學考古学資料館紀要　第19輯
早稲田大学考古学会
古代　第113号
日本大学史学会
史叢　第68号
青山学院大学史学科研究室
青山史学　第21号
駒澤大学考古学研究室
駒澤考古　第29号
(財)東京大学出版会
日本古代木簡集成
東海大学史学会
東海史學　第37号
専修大学考古学研究室
古墳時代東国における渡来系文化の受容と展開
金沢学院大学美術文化学部文化財学科
文化財論考　３号
愛知大学文学部史学科
愛大史学―日本史・アジア史・地理学―第12号
名古屋大学文学部考古学研究室
研究論集146　史学49［考古学抜刷第18集］、紀要第１　九合洞窟遺跡
滋賀県立大学人間文化学部
人間文化13号
大阪大学大学院文学研究科
待兼山論叢　第36号
大阪大学文学部埋蔵文化財調査室
久留米藩蔵屋敷跡
大谷女子大学博物館
大谷女子大学博物館報告書第47冊　中野Ⅱ、同第48冊　衣川・桝形森遺跡

大手前大学
社会文化学部論集　第３号、人文科学部論集第３号
大手前大学史学研究所
紀要　第１号、海峡をこえる技術の交流
帝塚山大学考古学研究所
研究報告Ⅳ
島根大学埋蔵文化財調査研究センター
島根大学埋蔵文化財調査研究報告第７冊　島根大学構内遺跡第11次調査
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学構内遺跡発掘調査報告第16冊　津島岡大遺跡11、同第17冊　津島岡大遺跡12、同第18冊　津島岡大遺跡13
岡山理科大学図書館
自然科学研究所研究報告　第28号
広島大学大学院文学研究科考古学研究室
帝釈峡遺跡群発掘調査室年報ⅩⅦ
九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
考古学資料集第30集　佐賀県大友遺跡Ⅱ、遺跡情報と都市情報の解読から活用へ
熊本大学文学部考古学研究室
考古学研究室報告　第38集、朝鮮半島系渡来文化の伝播・普及と首長系譜変動の比較研究
慶尚大學校博物館
慶尚大學校博物館研究叢書第26輯　陜川　玉田古墳群Ⅹ
忠南大學校百濟研究所
百濟研究　第37輯

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
収蔵品目録３
宮城県多賀城跡調査研究所
宮城城跡―発掘のあゆみ―
日本窯業史研究所
日本窯業史研究所報告第56冊　坂上北原遺跡、同第57冊　グシ内南遺跡、古代東国出土の施釉陶器
さいたま市遺跡調査会
さいたま市遺跡調査会報告書第８集　さくら塚・宮本東遺跡、同第12集　中里前原遺跡（第４次調査）、同第13集　大間木内谷北遺跡（第５次調査）・会ノ谷遺跡（第９次調査）、同第14集　水深北遺跡（第７次調査）・水深西遺跡（第４次調査）、同第15集　Ｂ－22号遺跡（土呂陣屋跡）、同第16集　札之辻３号遺跡（第１・２次調査）、同第17集　善前北遺跡・、谷口向原北遺跡（第２次調査）・大谷口向原東遺跡（第２次調査）、同第18集　椚谷遺跡（第11次）・南方遺跡（第７

次)・行谷遺跡(第４次)

朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会

泉水山・下ノ原遺跡Ⅱ、同Ⅷ

宮内庁書陵部

書陵部紀要　第54号

国立国会図書館

日本全国書誌　第15号(通号2424号)

(株)ＤＮＰアーカイブ・コム

考古学でみる歴史の復原―日本編

大成エンジニアリング(株)

信濃町南遺跡

東京書籍(株)

新総合図説国語　改訂新版

(株)ポプラ社

徹底大研究日本の歴史人物シリーズ５　織田信長

(株)講談社

日本書紀の真実　紀年論を解く

(財)韓国文化研究振興財団

青丘学術論集　第22集

日本考古学協会

日本考古学年報54、日本考古学　第14号、同第15号、前・中期旧石器問題の検証

玉川文化財研究所

羽根尾貝塚、羽根尾横穴群と周辺遺跡

盤古堂考古資料展示室

府中国府関連遺跡、青砥山ノ下遺跡、青砥山ノ下遺跡第１号墳とその時代

金沢城研究調査室

研究紀要　金沢城研究(創刊号)、年報１

新旭町郷土資料室

近江国木津荘現況調査報告書Ⅱ

姫路市立城郭研究室

城郭研究室年報　VOL.12

尼崎市立文化財収蔵庫

尼崎市文化財調査報告第32集　尼崎市内復旧・復興事業に伴う発掘調査概要報告書、尼崎市埋蔵文化財年報　平成７年度(4)

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

古代の官衙遺跡、奈良文化財研究所史料第60冊平城京条坊総合地図、アジアの古代都城、鞏義黄冶唐三彩

奈良県立橿原考古学研究所

橿原考古学研究所研究成果第５冊　馬見古墳群の基礎資料、南朝石刻、「日中の考古学」―５・６世紀の国際交流―、年報28、考古學論攷第25冊、奈良県文化財調査報告書第90集　西坊城遺跡Ⅱ、同第91集　桐田和田遺跡、同第93集白石遺跡

朝鮮学会

朝鮮学報　第186輯

宮内庁正倉院事務所

正倉院紀要　第25号

シルクロード学研究センター

シルクロード学研究叢書７

島根県古代文化センター

島根県古代文化センター調査研究報告書14　山陰古代出土文字資料集成Ⅰ

岡山県古代吉備文化財センター

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告170　河内構遺跡・河内城跡・河内遺跡・ナル林遺跡・久田上原城跡・北条高下遺跡・峪畑遺跡・岡遺跡・比丘尼ヶ城跡・城峪城跡・札ノ尾遺跡、同171田井たれをず遺跡・田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡、同172　北坂奥遺跡、同173　津島遺跡４、同174　前内池遺跡・前内池古墳群・佐古遺跡、同175　岡山城二の丸跡、改訂　岡山県遺跡地図〈第１分冊～第９分冊〉

津山弥生の里文化財センター

津山市埋蔵文化財発掘調査報告第73集　橋本塚古墳群、年報　津山市弥生の里第10号

博物館等建設推進九州会議・編集委員会

Museum Kyushu　季刊第19巻・第４号　通巻74号

(財)京都市埋蔵文化財研究所

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-4平安宮漆室跡、同2001-5　平安宮左馬寮・御井・豊楽院跡、同2001-7　東寺(教王護国寺)旧境内、同2001-8　鳥羽離宮跡・下鳥羽遺跡、同2001-12　史跡賀茂御祖神社境内、同2001-13草木町遺跡、同2001-14　白河街区・岡崎遺跡、同2002-1　平安京跡右京三条一坊七町跡、同2002-2　長岡京右京一条四坊十三・十四町跡、同2002-3　平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡、同2002-4　平安京右京四条四坊十五町・十六町跡、同2002-5　平安京右京三条一坊三・六・七町跡

京都市埋蔵文化財調査センター

京都市内遺跡発掘調査概報　平成14年度、京都市内遺跡立会調査概報　平成14年度、京都市内遺跡試掘調査概報　平成14年度、京都市遺跡地図台帳

(財)長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市埋蔵文化財調査報告書　第29集、同第31集　長岡京跡右京第748次発掘調査報告、年報　平成13年度

京都府教育委員会

埋蔵文化財発掘調査概報2003、京都府遺跡地図［第３版］第３分冊

野田川町教育委員会

京都府野田川町文化財調査報告第26号　町内遺跡発掘調査概報

宮津市教育委員会

宮津市文化財調査報告第36集　成相寺旧境内第１次発掘調査概要

舞鶴市教育委員会

舞鶴市文化財調査報告第17集　倉谷丸山２号墳発掘調査概報、同第21集　三庄太夫・城ヶ腰遺跡発掘調査概報、同第23集　倉谷遺跡第２次発掘調査概要報告書、同第25集　喜多家奥古墳発掘調査概要報告書、同第26集　倉谷遺跡第３次発掘調査概要報告書、同第34集　泉源寺遺跡第２次発掘調査概要報告書、同第36集　浦入遺跡群発掘調査報告書、同第39集　泉源寺遺跡第３次発掘調査概要報告書

大江町教育委員会

大江町文化財調査報告書　第11集

福知山市教育委員会

福知山市文化財調査報告書　第42集、同第44集、同第45集

八木町教育委員会

八木町文化財調査報告書第７集　町内遺跡発掘調査概要、同第８集　新庄遺跡発掘調査概要、同第９集　町内遺跡発掘調査概要、同第10集　町内遺跡発掘調査概要

長岡京市教育委員会

長岡京市文化財調査報告書　第43冊、同第44冊、同第45冊

大山崎町教育委員会

大山崎町文化財年報　平成13年度、大山崎町埋蔵文化財調査報告書第24集　大山崎町第18次遺跡確認調査(7YYMSNM-6地区)発掘調査報告、同第25集　山城国府跡第54次(7XYS'UD-4地区)発掘調査報告、同第26集　山崎津跡第15次(7YYMS'YS地区)発掘調査報告、同第27集　平成14年度国庫補助事業調査概報

城陽市教育委員会

城陽市埋蔵文化財調査報告書　第42～46集

八幡市教育委員会

八幡市埋蔵文化財発掘調査概報　第33集、同第34集

久御山町教育委員会

巨椋池ものがたり

井手町教育委員会

井手町文化財調査報告第４集　石橋瓦窯跡発掘調査概報

京都府立総合資料館

資料館紀要　第31号

京都府京都文化博物館

朱雀　第13集、同第14集、1998・1999年度年報、京都文化博物館調査研究報告第15集　雲林院跡、都の音色

丹後町古代の里資料館

京都府丹後町文化財調査報告第16集　平成14年度町内遺跡発掘調査概報

日吉町郷土資料館

学校のキヲク

城陽市歴史民俗資料館

館報　第８号

佛教大学総合研究所

紀要　第10号

京都大学文学部考古学研究室

京都大学所蔵古瓦図録Ⅰ

京都府立亀岡高等学校

久遠の知　第６集

(財)泉屋博古館

紀要　第19巻

(財)古代學協會

古代文化　第55巻第４～６号

(株)河原書店

高麗茶碗

向日市文化財調査事務所

向日市埋蔵文化財調査報告書　第59集　長岡京跡ほか

穴沢咏光

史峰　第39号

椚國男

多摩考古　第33号

近藤喬一

アジアの歴史と文化　第七輯

林　博通

人間文化13号

前田豊邦

大阪府の歴史

【お詫びと訂正】前号第88号に以下の誤植がありましたので訂正いたします。

８頁13行目　(誤)奈具岡遺跡では、結晶化しない・・→「結晶化しない」を削除

９頁第２図　(誤)島根県西高江遺跡→(正)鳥取県西高江遺跡

編集後記

今年の梅雨明けは、例年に比べ遅く、この時期に終盤を迎えた現地調査は大変だったようです。「雨の日も見込んで作業計画を立てよ」とよく言われましたが、撮影などここ一番と言うときに、よく天気が崩れた記憶があります。その時は、てるてる坊主に頼むか、日頃の行いを良くするしかありません。

さて、今号の研究ノートに掲載しました城陽市芝山遺跡については、今年の調査でも大きな成果があがっています。いずれ詳しい調査内容を報告する予定ですのでご期待下さい。

また、今号に紹介しましたように、土辺古墳の家形埴輪は、復原の結果、全容が明らかになりました。破片では、想像の域をでなかった部分も、あらためて理解できました。一部分から全体像を把握することのむずかしさを感じました。

（編集担当＝辻本和美）

京都府埋蔵文化財情報 第89号

平成15年9月30日

発行　(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877(代)　Fax (075)922-1189

印刷　三星商事印刷株式会社

〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961 (代)